

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY
ARCHITECTURAL DESIGN WORKS '20

Vol.27

Graduation design presenter list '20

Ryo Aoyama
Komi Aso
Ken Iigaya

Ren Iwaya
Shoma Kamimura
Yuya Goto

Nara Hirata
Fujiwara Ayaka
Rina Maruyama

CONTENTS

2020年度「北海学園大学 工学部建築学科 設計作品集」 HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY ARCHITECTURAL DESIGN WORKS'20

subject	page	student no.	name	title
卒業設計	4年生	02	4317222 平田奈羅 Nara Hirata	あいあい傘 <2020年度北海学園大学工学部建築学科 最優秀作品> <近代建築別冊「卒業制作2021」掲載作品>
		10	4317226 丸山莉奈 Rina Maruyama	未来へ街を継ぐ <2020年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品> <2021年度日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」出展作品>
		15	4317103 飯ヶ谷健 Ken Iigaya	追憶の双庫 <2020年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品>
		20	4317101 青山 稜 Ryo Aoyama	森と私 <北海道組卒業設計合同講評会2021 最優秀賞>
		22	4317102 麻生香実 Komi Aso	とける絆-震災後10年から読み解く新たなランドスケープの提案- <北海道組卒業設計合同講評会2021 優秀賞>
		23	4317107 岩谷 蓮 Ren Iwaya	境界の俣り
		24	4317113 上村祥馬 Shoma Kamimura	Shoma and ... ~さみしがりやな僕の、大げさでささやかな建築的行為~ <JIA北海道支部学生卒業設計コンクール2021 銅賞>
		25	4317208 後藤悠也 Yuya Goto	キフクニナジム~最下位ゴルフ場に沿うことで、際立つ魅力の可能性~
		26	4317223 藤原絢佳 Ayaka Fujiwara	発達障がいと向き合う~宿泊型自立生活訓練施設の提案~
		27	2020年度卒業設計提出者リスト	
造形演習 I	1年生1学期	28	4320139 三上 潤 Jun Mikami	問題用紙をモチーフとした平面構成
		4320221 芝田碧敬 Aoto Shibata	問題用紙をモチーフとした平面構成	
		4320232 花山翔太 Shota Hanayama	問題用紙をモチーフとした平面構成	
		4320201 秋村京佑 Kyosuke Akimura	問題用紙をモチーフとした平面構成	
		29	4320126 高橋力生 Riki Takahashi	季節をテーマとした自画像
		4320240 藪内侑希 Yuki Yabuchi	季節をテーマとした自画像	
		4320246 渡辺倫大 Tomota Watanabe	季節をテーマとした自画像	
		4320206 今井志央梨 Shiori Imai	光をテーマとした平面構成	
		4320113 及川由朔 Yusaku Oikawa	光をテーマとした平面構成	
		4320245 吉泉颯人 Hayato Yoshiizumi	光をテーマとした平面構成	
造形演習 II	1年生2学期	30	4320239 盛田小想 Kokoro Morita	コラージュを主体とした平面構成
		4320208 太田湊一 Koichi Ota	コラージュを主体とした平面構成	
		4320229 中西一貴 Ikki Nakanishi	コラージュを主体とした平面構成	
		4320124 鈴木康平 Kohei Suzuki	コラージュを主体とした平面構成	
		31	4320230 中山 碧 Aoi Nakayama	身の回りのモノをモチーフとした細密画
		4320235 源 竜河 Ryuga Minamoto	身の回りのモノをモチーフとした細密画	
		4320133 中村千陽 Chiharu Nakamura	身の回りのモノをモチーフとした細密画	
		4320205 井上洸平 Kohei Inoue	建築と私をテーマとした立体構成	
		4320228 富石 光 Hikaru Tomiishi	建築と私をテーマとした立体構成	
		4320238 本山敦崇 Nobutaka Motoyama	建築と私をテーマとした立体構成	
空間デザイン演習基礎	2年生1学期	2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い課題形式を変更した。		

subject	page	student no.	name	title	
空間デザイン演習 I	2年生2学期	32	4319131 前田颯斗 Hayato Maeda	カフェ・テラス	
		33	4319212 塩野谷基悟 Kisato Shionoya	カフェ・テラス	
		34	4319118 鈴木瑛美 Eimi Suzuki	小課題「住宅をさがそう」	
		4319236 渡邊智帆 Chiho Watanabe	小課題「住宅をさがそう」		
		35	4319128 畠中脩斗 Shuto Hatanaka	住宅	
		36	4319212 塩野谷基悟 Kisato Shionoya	住宅	
空間デザイン演習 II	3年生1学期	37	4318117 高崎菜々美 Nanami Takasaki	デザイン・スクール	
		38	4318226 福井彰一郎 Shoichiro Fukui	デザイン・スクール	
		39	4318117 高崎菜々美 Nanami Takasaki	小課題「建築作品をさがそう」	
		4318236 八柳光汰 Kota Yatsuyanagi	小課題「建築作品をさがそう」		
		40	4318139 吉田光沙 Misa Yoshida	テナント・ビル	
41	4318201 赤坂飛龍 Hiryu Akasaka	テナント・ビル			
建築デザイン論	3年生1学期	42	4318117 高崎菜々美 Nanami Takasaki	無常光	
		4318102 Miku Igarashi	透過と屈折		
		43	4318120 高橋奈緒 Nao Takahashi	不透明な身体と思い出のためのブラックボックス	
4318210 黒田 駿平 Shumpei Kuroda	網目				
空間デザイン演習 III	3年生2学期	44	4318117 高崎菜々美 Nanami Takasaki	アート+建築=X	
		45	4318226 福井彰一郎 Shoichiro Fukui	アート+建築=X	
		46	4318226 福井彰一郎 Shoichiro Fukui	電車通りの「みんなの家」	
		47	4318236 八柳光汰 Kota Yatsuyanagi	電車通りの「みんなの家」	
空間デザイン演習 IV	4年生1学期	48	4317222 平田奈羅 Nara Hirata	大通公園前の図書交流館	
		49	4317226 丸山莉奈 Rina Maruyama	大通公園前の図書交流館	
		50	4317102 麻生香実 Komi Aso	光と邂逅する建築	
		51	4317222 平田奈羅 Nara Hirata	光と邂逅する建築	
		2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い開催を中止した。			
2020年度コンペ入賞作品	修士1年生 4年生	52	6320101 三浦光雅 Mitsumasa Miura	第1回「スカイコート学生プランニングコンペ」最優秀賞（共同作品）	
		4317107 岩谷 蓮 Ren Iwaya	第14回「長谷工 住まいのデザインコンペティション」優秀賞		
		6320101 三浦光雅 Mitsumasa Miura	インテリアプランニングコンペ2020 日本インテリアプランナー協会会長賞		
		4317226 丸山莉奈 Rina Maruyama	第45回「北の住まい住宅設計コンペ」最優秀賞		
		4317222 平田奈羅 Nara Hirata	第45回「北の住まい住宅設計コンペ」優秀賞		
	修士1年生 4年生	6320102 渡邊憲成 Kensei Watanabe	第45回「北の住まい住宅設計コンペ」優秀賞		
		4317107 岩谷 蓮 Ren Iwaya	第45回「北の住まい住宅設計コンペ」優秀賞（共同作品）		
		4317103 飯ヶ谷健 Ken Iigaya	第45回「北の住まい住宅設計コンペ」優秀賞（共同作品）		
		6320101 三浦光雅 Mitsumasa Miura	第12回「ハーフェル学生デザインコンペティション2020」一次審査通過（共同作品）		
		6320102 渡邊憲成 Kensei Watanabe	第12回「ハーフェル学生デザインコンペティション2020」一次審査通過（共同作品）		
2020年度学外活動	title 沼田町 高齢者向け集合住宅 計画設計提案プロジェクト	4年生	54	4317108 上野雅貴 Masaki Ueno	4317223 藤原絢佳 Ayaka Fujiwara
			4317120 高橋茉佑 Mayu Takahashi	4317226 丸山莉奈 Rina Maruyama	
			4317203 岩淵晃大 Kodai Iwabuchi	4317228 向井芽愛 Mei Mukai	
			4317206 片山菜月 Natsuki Katayama	4317235 横田柊斗 Shuto Yokota	
			4317210 佐竹彩花 Ayaka Satake		
		3年生	4318117 高崎菜々美 Nanami Takasaki	4318215 塩谷拓希 Hiroki Shiotani	
			4318120 高橋奈緒 Nao Takahashi	4318226 福井彰一郎 Shoichiro Fukui	
			4318124 鳴海圭祐 Keisuke Narumi	4318229 堀田達也 Tatsuya Horita	
			4318139 吉田光沙 Misa Yoshida		
			title 第3回 道内大学生によるものづくり製品化&起業支援事業 プレゼン作品 PUSH PULL PLACE 人と寄り添う収納家具		
修士1年生 4年生	58	6320101 三浦光雅 Mitsumasa Miura	6320102 渡邊憲成 Kensei Watanabe		
	4317102 麻生香実 Komi Aso	4317208 後藤悠也 Yuya Goto			
	4317103 飯ヶ谷健 Ken Iigaya				
3年生 2年生	4318117 高崎菜々美 Nanami Takasaki	4318120 高橋奈緒 Nao Takahashi			
	4319212 塩野谷基悟 Kisato Shionoya				
60	2020年度科目担当教員リスト				

2020年度北海学園大学工学部建築学科 最優秀作品
近代建築別冊「卒業制作2021」掲載作品

あいあい傘

令和3年 2月17日
※設計者
4317222 平田奈羅

1.敷地
韓国の首都ソウルから遠く離れた尚州府(サンジュ市)の愚山里 愚伏洞(ウサンリ ウゴクトン)という小さな集落に父の実家があり、私も毎年訪れる。農業で栄えたこの集落では数世代が暮らしているが、現在高齢化が進み、農業が衰退している。周辺の有形文化財やキャンプ場による活気の中で、住民の暮らしが置いてきぼりになっていると感じ、集落の暮らしをよくしたいと思い、集落とともに共生できるような建築をします。

2.コンセプト
集落の暮らしを向上させるために、[交流]と[農業支援]の場を提案する。交流によって住民の暮らしの良守り、事業などのつながりを地域外に拡大する機会を与えることができる。農業体験を通して住民の農作業を手伝い、作物を取引できる場とすることで住民の負担を軽減することができる。

3.デザイン
・集落に広がる自然の輪郭に寄り添い、なじみデザインを目指した。
・韓屋の特徴の屋根を尊重しつつ、機能を補った

4.素材
構造は基本的にRCとするが、一部に透光ネット(半透光シート)を用いる。本来は農業用で、壁などの陰性植物や観葉植物などを育てる目的で開発されたプラスチック製の素材で透光するだけでなく風通しもよく、安価で丈夫なため住民の生活のあらゆる場面に適している。

5-1.柿色の空き家 既存
キャンプ場と集落の間を通る道を中心に提案する。道の行き止まりの、集落の中で一番高いところにある空き家を活用し、交流、共生の場とした。青山臨水の配置にあり、いい光が漏れる場と言われ自然療養を目的としても使用されてきた。

5-2.柿色の空き家 提案
・造幣・増築した跡と、ひさしなどの様々な付加物
・身分で分けられた、独立した建群
・母屋にマンダラがある
・韓屋特有のチヨンやスマル(板の間)がない



2.コンセプト
集落の暮らしを向上させるために、[交流]と[農業支援]の場を提案する。交流によって住民の暮らしの良守り、事業などのつながりを地域外に拡大する機会を与えることができる。農業体験を通して住民の農作業を手伝い、作物を取引できる場とすることで住民の負担を軽減することができる。

3.デザイン
・集落に広がる自然の輪郭に寄り添い、なじみデザインを目指した。
・韓屋の特徴の屋根を尊重しつつ、機能を補った

4.素材
構造は基本的にRCとするが、一部に透光ネット(半透光シート)を用いる。本来は農業用で、壁などの陰性植物や観葉植物などを育てる目的で開発されたプラスチック製の素材で透光するだけでなく風通しもよく、安価で丈夫なため住民の生活のあらゆる場面に適している。

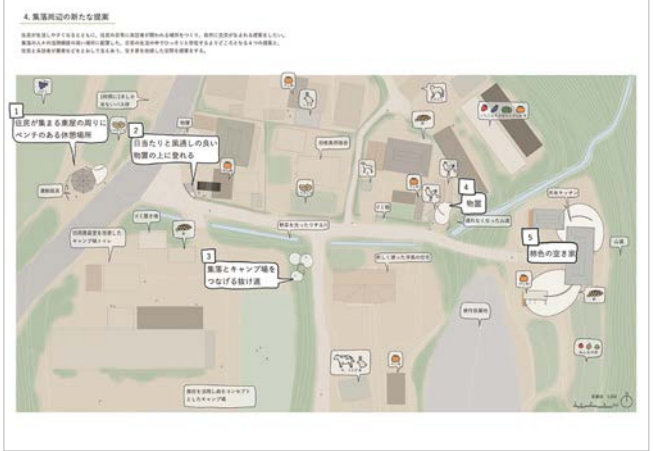
5-1.柿色の空き家 既存
キャンプ場と集落の間を通る道を中心に提案する。道の行き止まりの、集落の中で一番高いところにある空き家を活用し、交流、共生の場とした。青山臨水の配置にあり、いい光が漏れる場と言われ自然療養を目的としても使用されてきた。

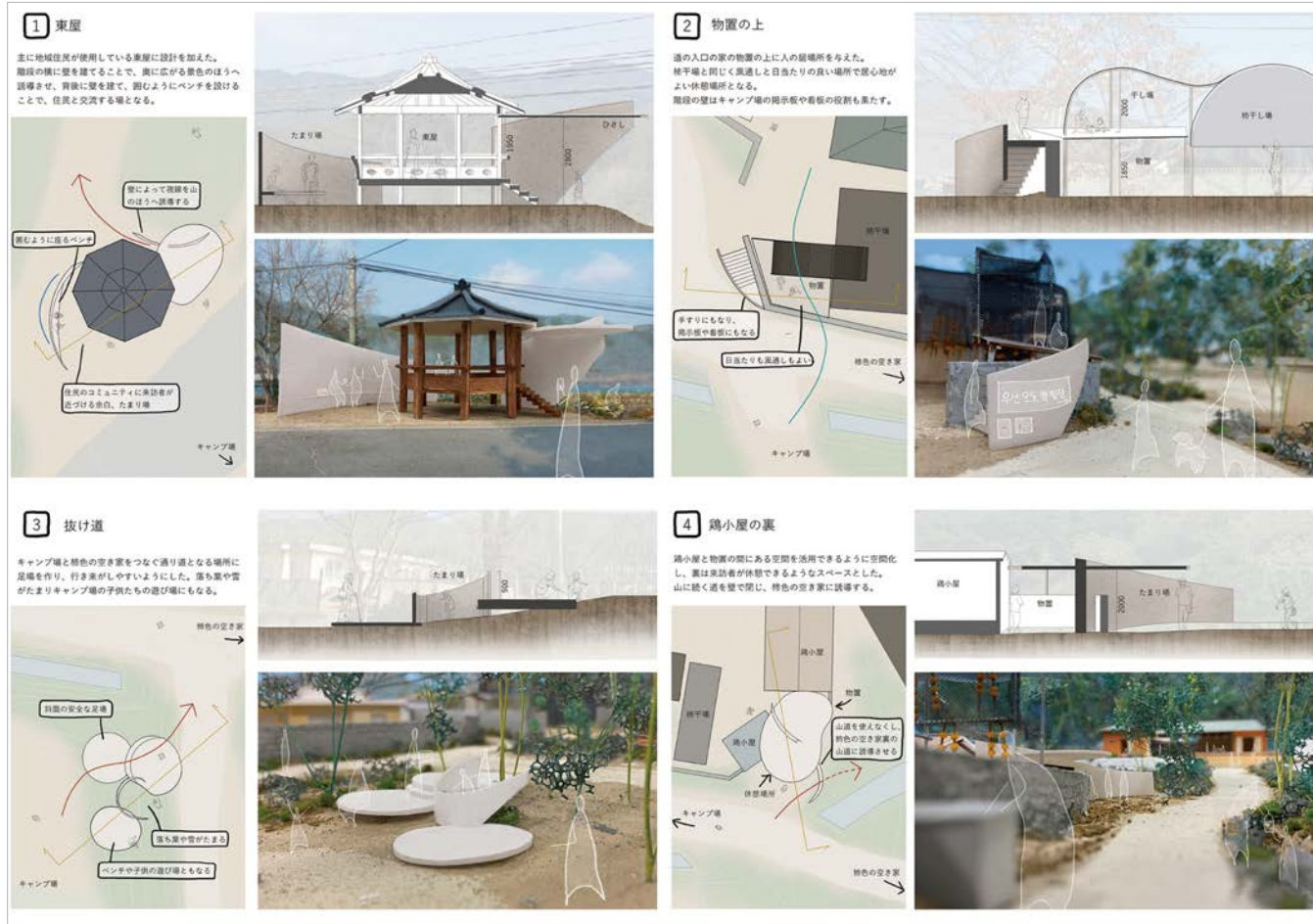
5-2.柿色の空き家 提案
・造幣・増築した跡と、ひさしなどの様々な付加物
・身分で分けられた、独立した建群
・母屋にマンダラがある
・韓屋特有のチヨンやスマル(板の間)がない



3. 集落周辺のいまの姿

古くから高い山が多く、きれいな水と空気があり気候も作物栽培に適しているこの集落は、現在も住民のほとんどが農家。集落の中には農業用具や住民が作った物置小屋など、農村ならではの風景が見られる。





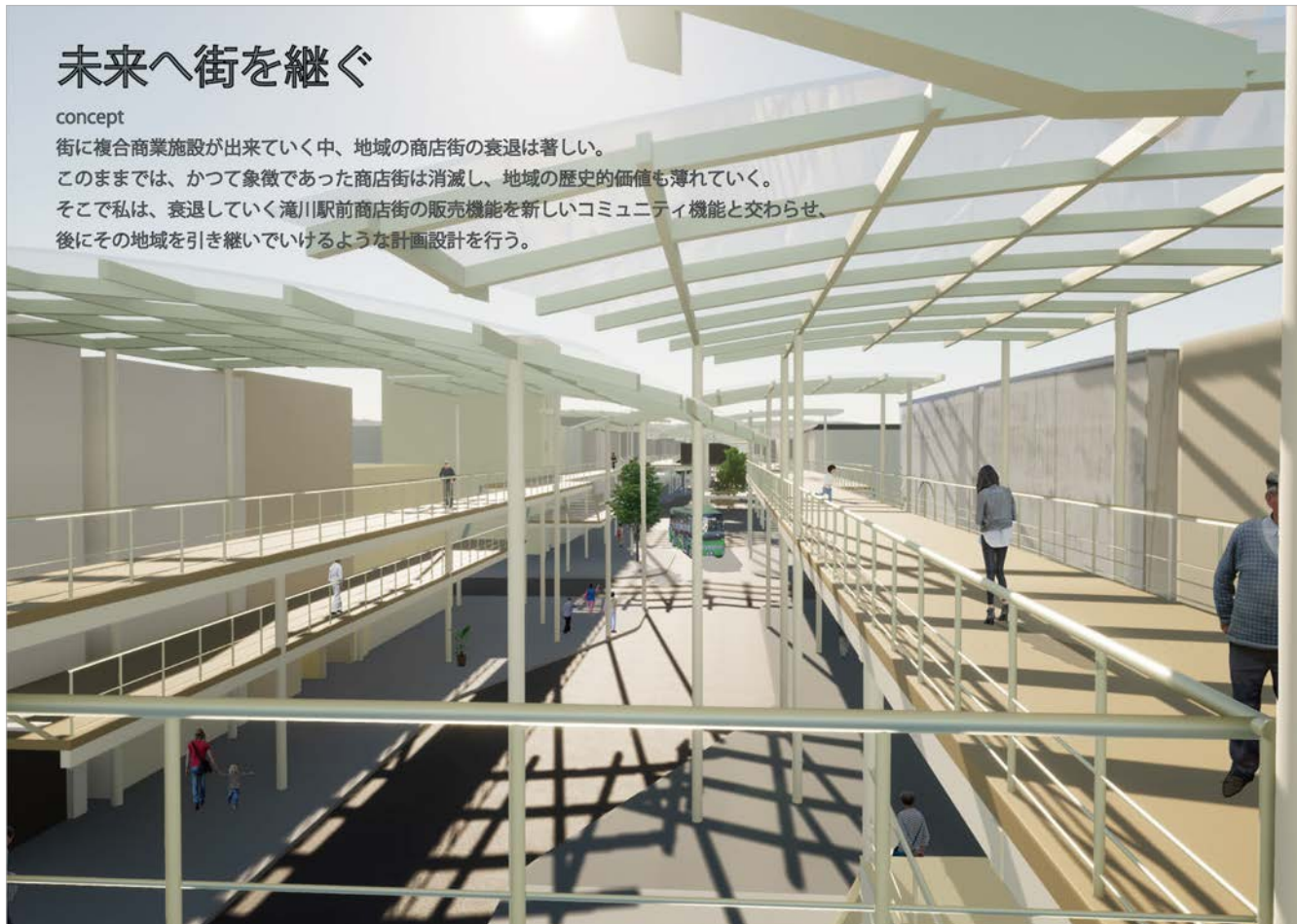


2020年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品
2021年度日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」出展作品

未来へ街を継ぐ

concept

街に複合商業施設が出来ていく中、地域の商店街の衰退は著しい。
このままでは、かつて象徴であった商店街は消滅し、地域の歴史的価値も薄れていく。
そこで私は、衰退していく滝川駅前商店街の販売機能を新しいコミュニティ機能と交わせ、
後にその地域を引き継いでいけるような計画設計を行う。



滝川の現状

北海道滝川駅周辺（滝川鈴蘭商店街、滝川駅前商店街周辺）

滝川市は
集約化のマネジメント計画を立てていること
人口が年々減少し、高齢化もすすんでいること
滝川駅前商店街周辺に公共施設等が近年できており、商店街の役割が大きく変化する最中であること
以上三点から対象地域となった。

たきかわ紙袋ランタンフェスティバルや夏祭りなどが開催されているが
今は半数近くの商店街の店がシャッターを下ろしている状態である。



主要施設

- 1 滝川市立病院
- 2 まちづくりセンターみんくる
- 3 街なかひろば く・る・る
- 4 太郎吉屋
- 5 スマイルビル
- 6 滝川幼稚園
- 7 滝川市役所
- 8 神楽クリニック
- 9 願成寺

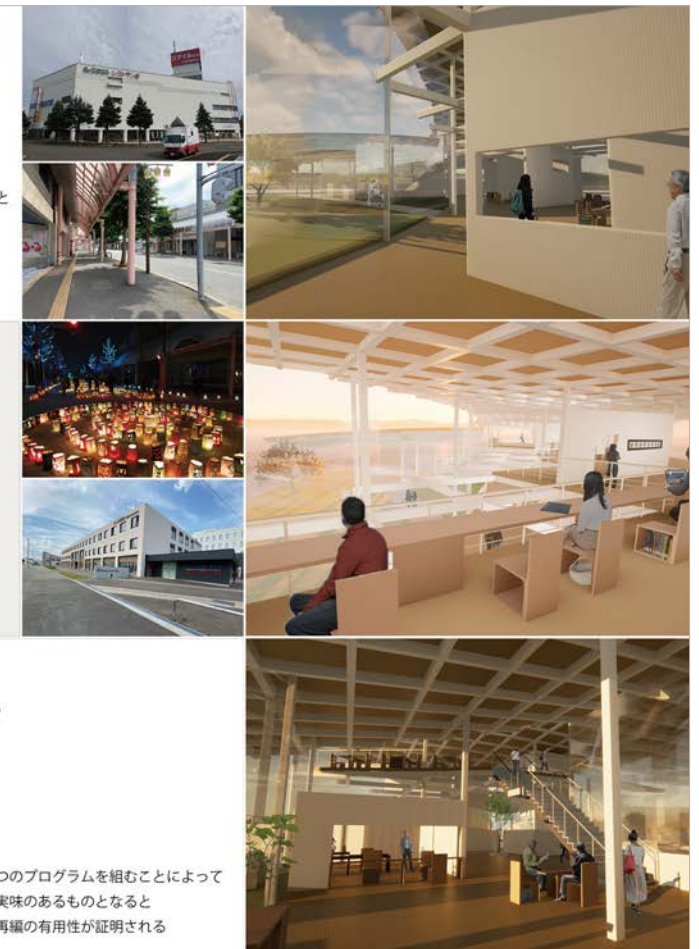
青色：設計範囲

program

商店街には、公共施設や銀行などサービス関係のものが集結していることが調査の結果分かった。
そこで、商店街を商品売場ではなく、コミュニティを形成する場と定義しなおす
ことによって滝川商店街の転換の起点としようと考えた。

1. 地域機能の再編
リハビリ・・・高齢者の日常生活の復帰を目指したまちづくり
コミュニティ・・・高校生などの若者と高齢者の交流の場を用意することは
将来の人口流出阻止につながる
2. 滝川の将来の変化
x年後がどのように変化していくかを具体的に想像し、形にしてい

→この2つのプログラムを組み合わせることによって
より現実味のあるものとなると
同時に再編の有用性が証明される



駅前センター 結

商店街の中心活動地点となる施設である。リハビリ施設の開始拠点として、アーケードにも接続している。今まで道路や空き地で行われていたたきわ紙袋ランタンフェスティバルや夏祭りなどのイベントの中心地にもなり人が多く溜まる場を計画した。



建物がひとつなぎになっており、場に連続感が生まれている。また、二階からは一階の体験空間が見渡せるようになっており、作業の様子を見て学んだりお互いに様子を伺うことができる。この相互に見合うことができることによってコミュニケーションのきっかけを得る仕組みとなっている。






フードコート

この施設には飲食店があるが、フードコートのような持ち歩きながら食べられる場所はない。そこで、この施設がフードコートの中心地になるように、互いに顔を合わせるような空間を創出した。

造作家具について

この造作家具は、椅子にも座りながら利用できるものになっている。例えば、背中を丸めて座りながら利用できる。また、背中を丸めて座りながら利用できる。また、背中を丸めて座りながら利用できる。



1. アーケードでつながる街

従来のリハビリは室内でトレーニングをすることが多いが、アーケードで駅前施設とリハビリを行っている病院を結ぶことによって商店街の利用率の向上とリハビリを買い物感覚で気軽に行えるようになる。このことによって、衰退化していた商店街の発達と新たなコミュニティ形成を促す。このアーケードの再利用とそれに接続する施設を併設することによって、今後の滝川駅前の転換につながる。

2. コミュニティバス

商店街の活性化のために高齢者のみならず学生も利用できるコミュニティバスを整備する。停留所は、公共施設を巡回する。本設計では日中は道路を単線一方通行にし、このコミュニティバスのみ通れるようになっている。

3. 商店街の特色分け

駅前側と病院側に特色をつけることによって将来の変化に対応した仕組みとなっている。
駅前側は、一階は商店、二階は住宅として利用できる。住民に対する配慮のため緑が多く飾れるようになっており、プライバシーを保ちつつ生活できるように計画されている。
病院側は、一階二階とも商業ができるようになっている。それによって商業がより発展するスペースになっている。

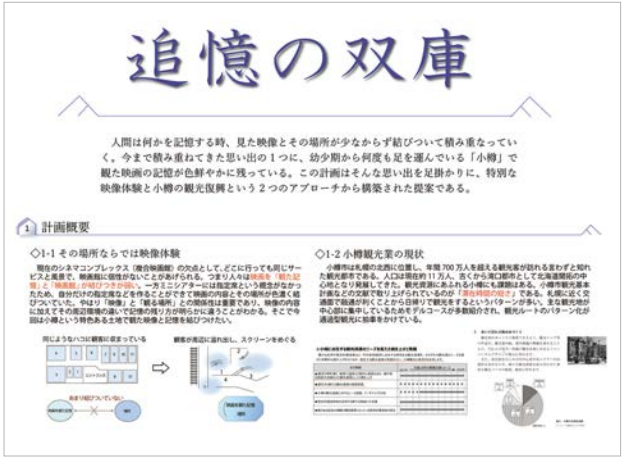
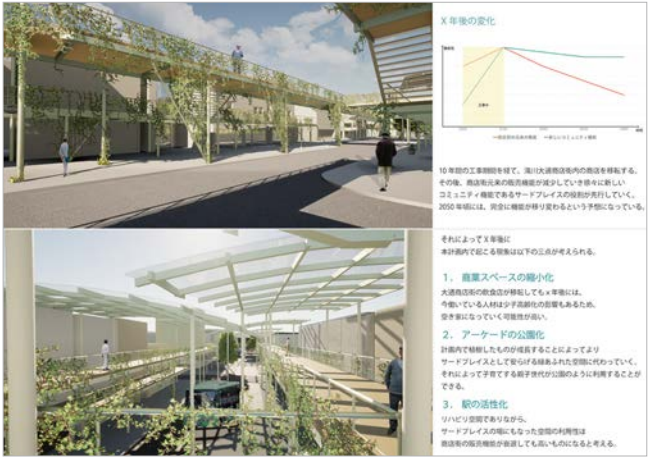
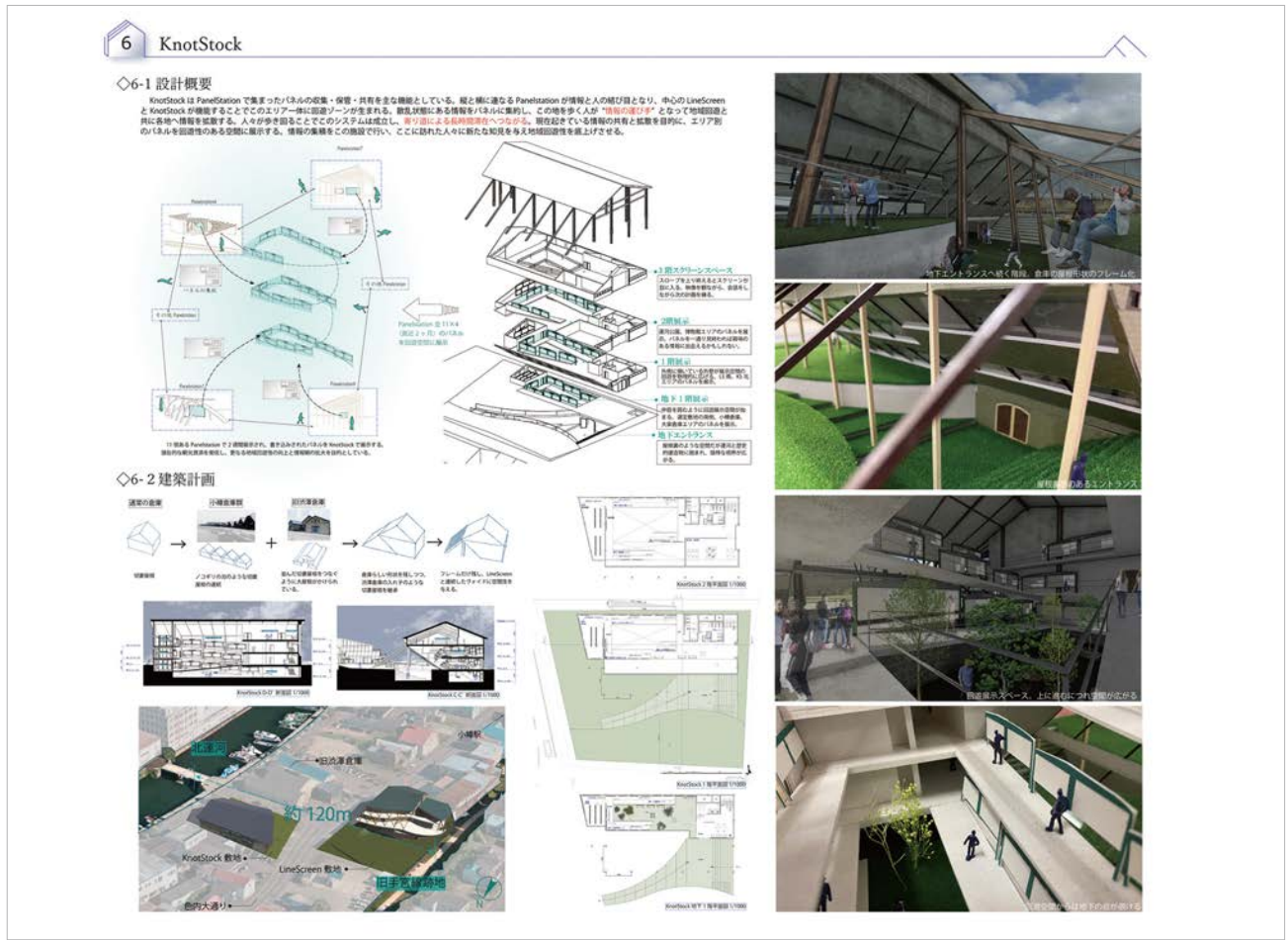
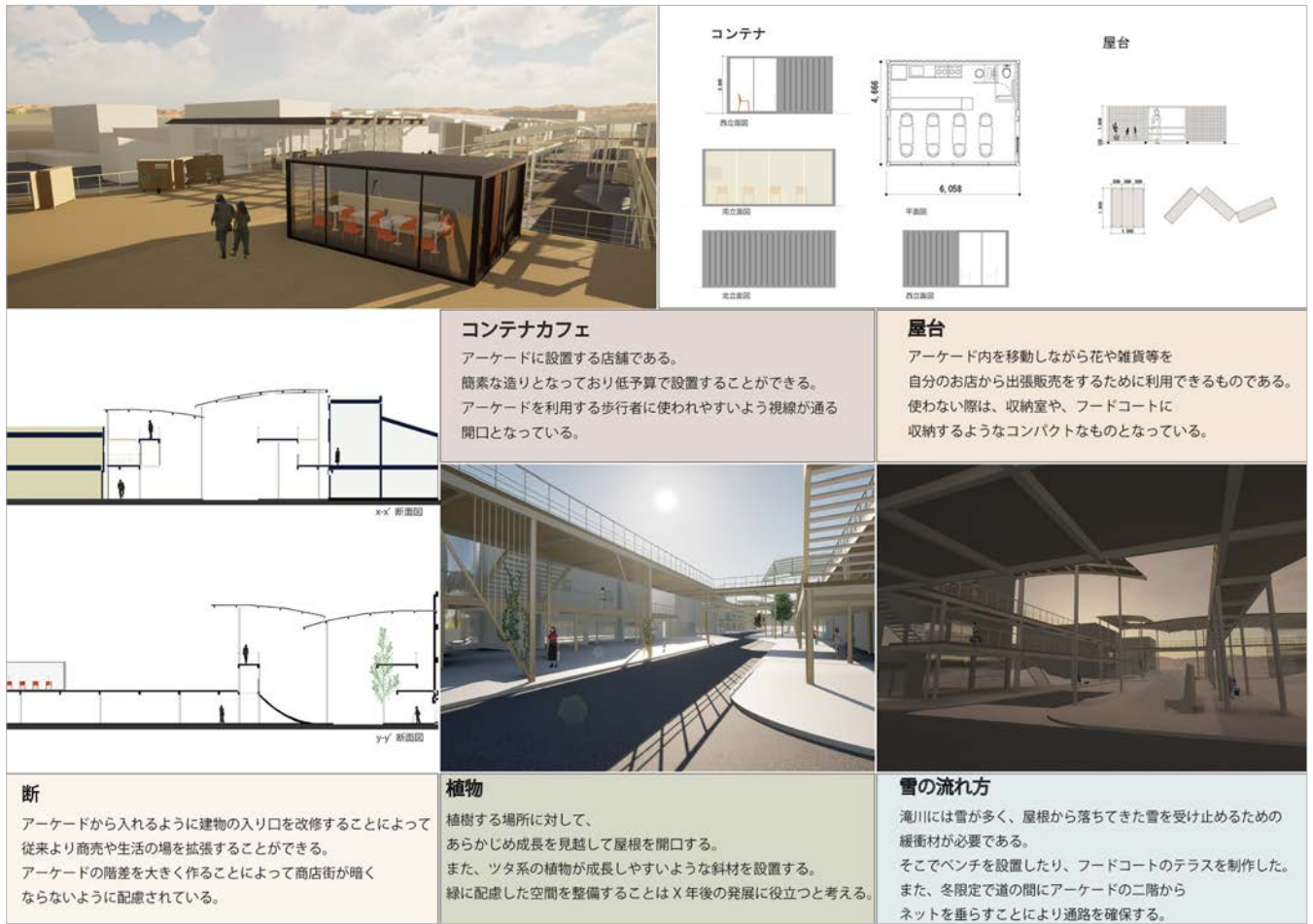





道路を単線にしたことによって、歩道が広がる。それによってバス停や遊具、イベントスペースを確保することができる。また、屋根を道路に合わせて斜めにカットすることにより雪が広くした歩道に流れやすくなり、地域の特徴が生まれる。



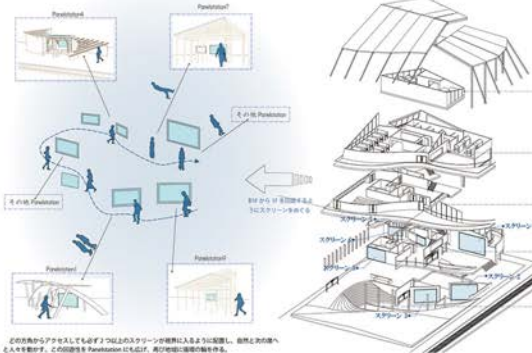
2020年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品



5 LineScreen

◇5-1 設計概要

LineScreenの目的は長期滞在を促すための複合施設と建造物。この施設は KnotStockと対になっており、小樽ならではの複合施設を築いていくことで、地域住民と観光客をつなげる役割を持つ。全10あるスクリーンでは同じ施設を造る。スクリーンを設けながら地域の集まる場として創出される。また、Panelstationでも同じ施設を造ることで施設の輪を広げ、人々を集める場として創出される。共有する機能を KnotStockと連携し、交通のきつさを解消して行く複合施設になる。唯一の建築型アクティビティとして映像を用いたプログラムである。



◇5-2 建築計画



◇3-1 コンテキストの読み解きから設計への転換

この計画は、映像を用いたアクティビティを行う空間。映像を用いたプログラムを実施する。この計画は、映像を用いたアクティビティを行う空間。映像を用いたプログラムを実施する。

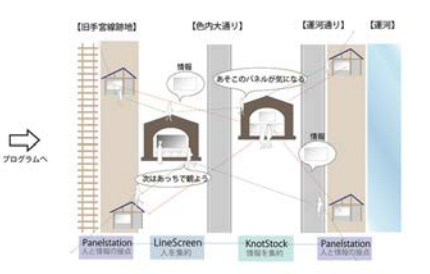
- 1. Panelstation: 徒歩定額乗車地・北道河川沿いに点在する11箇所の事務所、書き込み/3人用の展示、展示モニター
- 2. LineScreen: 複合施設、映像、音、広域、ワークショップ
- 3. KnotStock: 1人用の定額乗車、展示、保管

パネルに設置された映像は、映像を用いたアクティビティを行う空間。映像を用いたプログラムを実施する。この計画は、映像を用いたアクティビティを行う空間。映像を用いたプログラムを実施する。

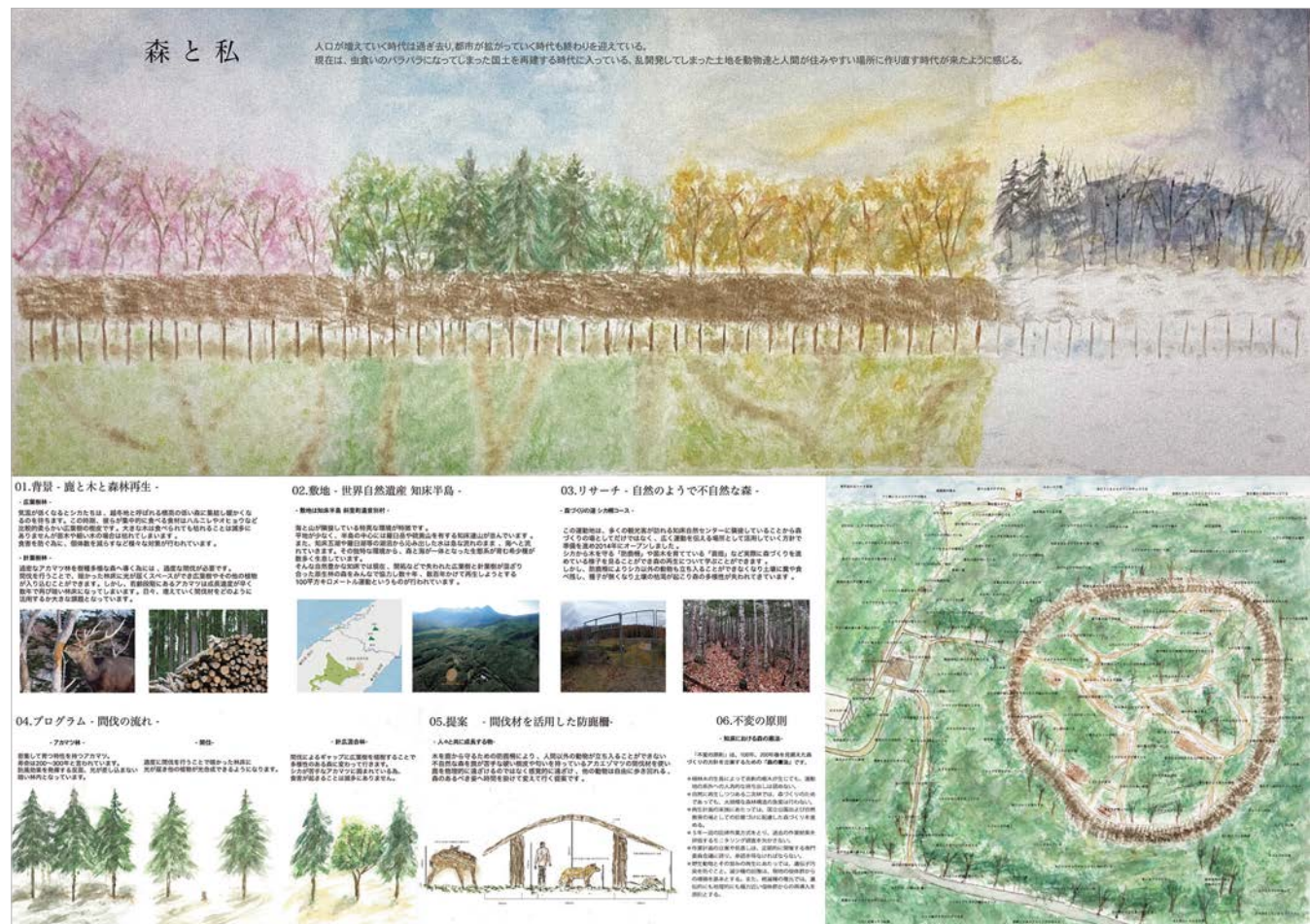
この計画は、映像を用いたアクティビティを行う空間。映像を用いたプログラムを実施する。この計画は、映像を用いたアクティビティを行う空間。映像を用いたプログラムを実施する。

- 映像に観る人をつなぐ
- 映像の提供ネットワークの確立
- 住民の方と観光客との協力を促すための場の創出

映像という見聞なしに人々を引き込むコンテンツを用いて、様々な角度から物語を伝えるきっかけを作り、小樽市の内外的な魅力を発信する







01.背景 - 鹿と木と森林再生 -

- 広葉樹林 -
気候が低くなるにつれて、越冬地と呼ばれる標高の低い森に集結し眠くなるのを待たす。この時期、彼らが集中的に食べる食材はハルニレやオヒョウなど比較的柔らかい広葉樹の樹皮です。大きな木は食べられても枯れることは滅多にありませんが苗木や細い木の場合は枯れてしまいます。食害を防ぐ為に、個体数を減らすなど様々な対策が行われています。

- 針葉樹林 -
過密なアカマツ林を樹種多様な森へ導くには、適度な間伐が必要です。間伐を行うことで、暗かった林床に光が届くスペースができ、広葉樹やその他の植物が入り込むことができます。しかし、若齢段階にあるアカマツは成長速度が早く数年で再び暗い林床になってしまいます。毎年、増えていく間伐材をどのように活用するか大きな課題となっています。

04.プログラム - 間伐の流れ -

- アカマツ林 -
密集して育つ特性を持つアカマツ。寿命は200~300年とされています。防風効果を発揮する反面、光が差し込まない暗い林内となっています。

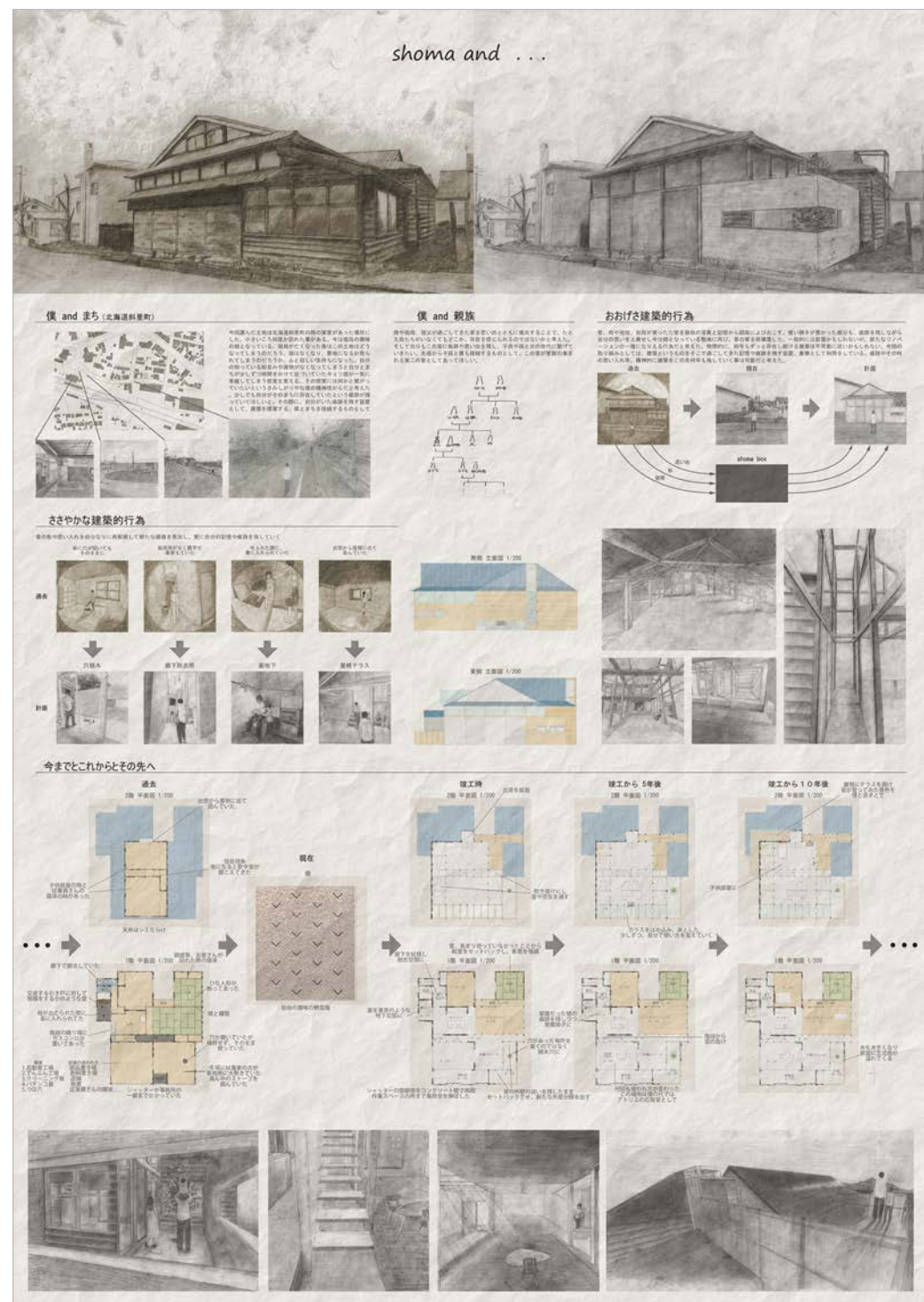
- 間伐 -
適度に間伐を行うことで暗かった林床に光が届き他の植物が光合成できるようになります。

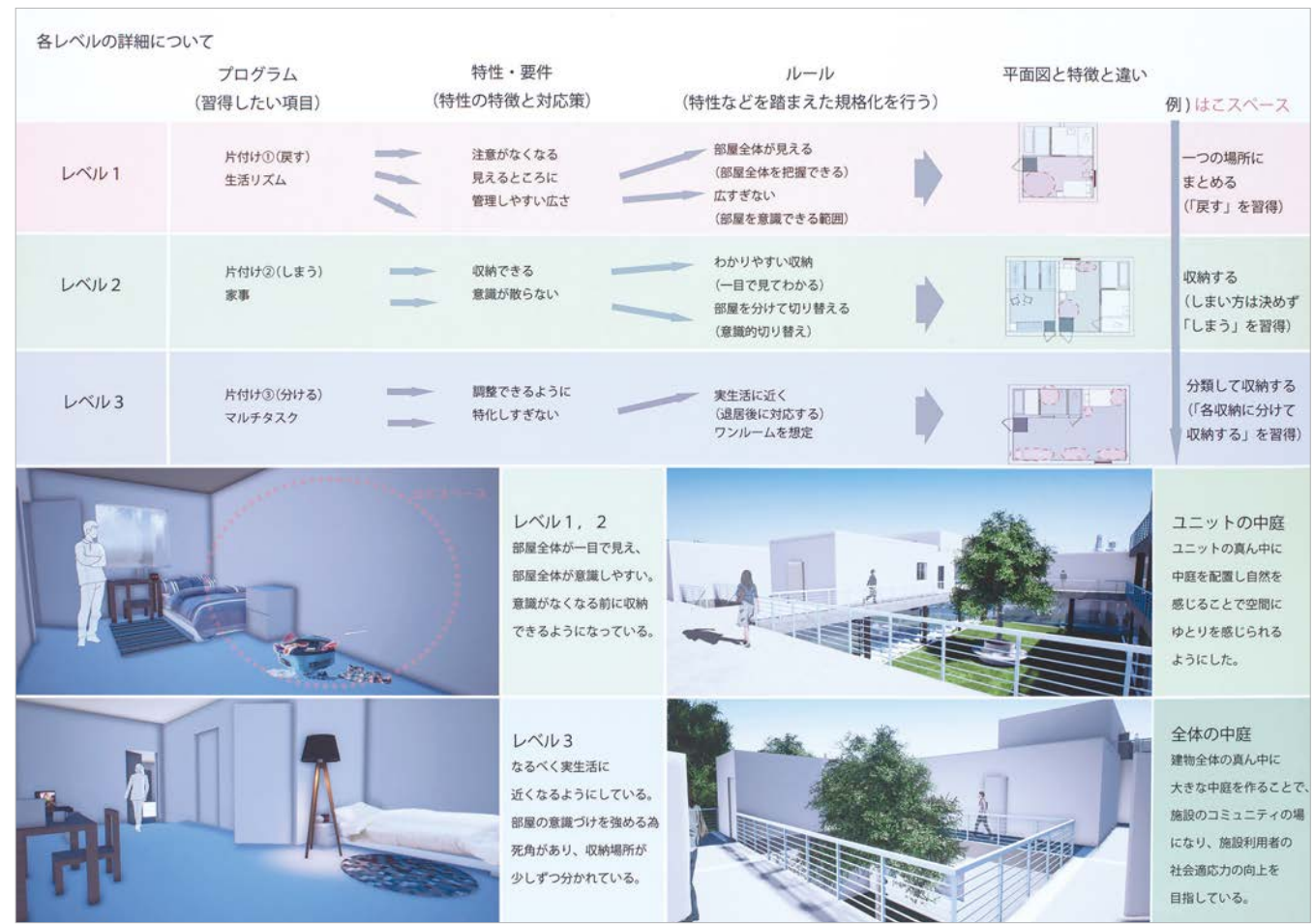
- 針広混合林 -
間伐によるギャップに広葉樹を植樹することで多様性のある森に変わって行きます。シカが苦手なアカマツに囲まれている為、食害が起きることは滅多にありません。

提案 - 間伐材を活用した防鹿柵 -

鹿が苦手な硬い樹皮や匂いを持っているアカマツの間伐材を利用し鹿を物理的に遠ざけるのではなく、感覚的に遠ざけ、他の動物は自由に歩き回れる自然な森の姿へ変えていく提案です。







- | | | | |
|---------|-------|----------------|--|
| 4317101 | 青山 稜 | Ryo Aoyama | 森と私 |
| 4317102 | 麻生香実 | Komi Aso | とける絆 -震災後10年から読み解く新たなランドスケープの提案- |
| 4317103 | 飯ヶ谷 健 | Ken Iigaya | 追憶の双庫 |
| 4317107 | 岩谷 蓮 | Ren Iwaya | 境界の憚り |
| 4317113 | 上村祥馬 | Shoma Kamimura | Shoma and ... ~さみしがりやな僕の、大げさでささやかな建築的行為~ |
| 4317208 | 後藤悠也 | Yuya Goto | キフクニナジム ~最下位ゴルフ場に沿うことで、際立つ魅力の可能性~ |
| 4317222 | 平田奈羅 | Nara Hirata | あいあい傘 |
| 4317223 | 藤原 絢佳 | Ayaka Fujiwara | 発達障がいと向き合う ~宿泊型自立生活訓練施設の提案~ |
| 4317226 | 丸山莉奈 | Rina Maruyama | 未来へ街を継ぐ |

① 問題用紙をモチーフとした平面構成

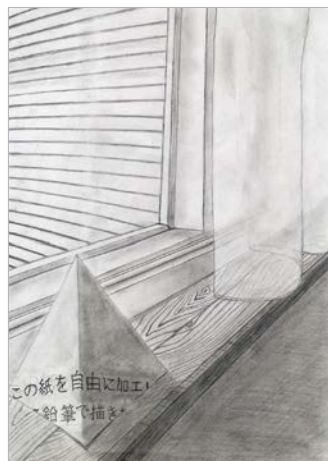
この紙を自由に加工し、画用紙に鉛筆で描きなさい。(素材は鉛筆)
紙のもつ性質と印刷された文字をうまく生かしながら表現すること。



① 三上 潤
Jun Mikami
4320139



① 芝田碧敬
Aoto Shibata 4320221



① 花山翔太
Shota Hanayama 4320232



① 秋村京佑
Kyosuke Akimura 4320201

② 季節をテーマとした自画像

季節をテーマに自画像を描きなさい。(素材は鉛筆)
自画像の配置は自由ですが、画面に今の季節を感じさせる要素を必ず入れること。



② 高橋力生
Riki Takahashi 4320126



③ 今井志央梨
Shiori Imai 4320206



② 藪内侑希
Yuki Yabuchi 4320240



③ 及川由朔
Yusaku Oikawa 4320113



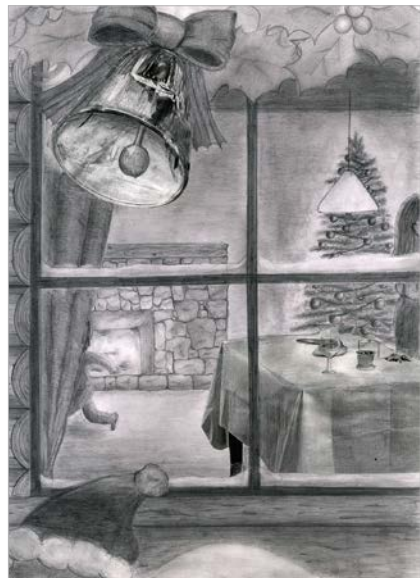
② 渡辺倫大
Tomota Watanabe 4320246



③ 吉泉颯人
Hayato Yoshiizumi 4320245

④ コラージュを主体とした平面構成

与えられた写真の中から2要素程度とりあげ、それらを主役とした画面を構成しなさい。(素材は自由)
コラージュしたものが画面の中で自然に存在するよう空間を描くこと。



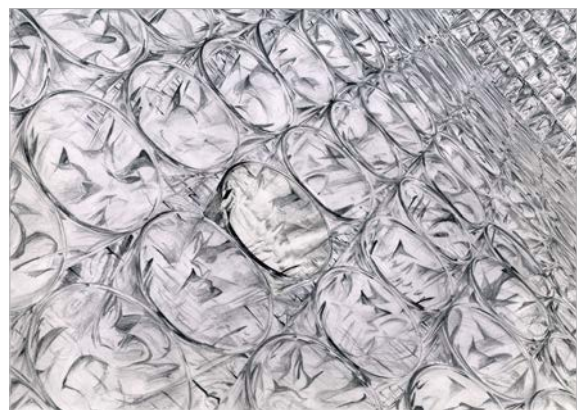
④ 盛田小想
Kokoro Morita
4320239



④ 太田滉一
Koichi Ota
4320208



④ 中西一貴
Ikki Nakanishi
4320229



④ 鈴木康平
Kohei Suzuki
4320124

⑤ 身の回りのモノをモチーフとした細密画

細密描写にふさわしいモチーフをあなたの身の回りから探し出し、平面構成しなさい。(着彩)
全体のバランスというより、普段は面倒臭くて省略したくなるような細部に視点を向けること。



⑤ 中山 碧
Aoi Nakayama
4320230



⑤ 源 竜河
Ryuga Minamoto
4320235



② 中村千陽
Chiharu Nakamura 4320133

⑥ 建築と私をテーマとした立体構成

与えられた素材(スチレンボード、樹脂粘土)を最大限に生かし「建築と私」をテーマに自由に表現しなさい。(素材は自由)
但し、作品サイズは28cm×21cm×5cmの範囲内とする。



⑥ 井上洸平
Kohei Inoue
4320205



⑥ 富石 光
Hikaru Tomiishi
4320228



⑥ 本山敦崇
Nobutaka Motoyama
4320238

カフェ・テラス

工学部校地の一角に建つ学生・教職員のための「たまり場(カフェテラス)」の設計。敷地は東西12m×南北15m。床面積は50㎡程度まで。用途は喫茶を主とするが、作品展示コーナー、ミーティングルームなど、各自が必要と考えるスペースも自由に盛り込んでよい。

前田 颯斗 4319131
Hayato Maeda

空間が広がるカフェテラス




～Concept～

- 学生や教職員のたまり場になるカフェテラスということで、人の目線の位置の変化と人数による必要空間の大きさの変化に注目した。その結果、床がすこしづつ上がり、上下左右に空間が広がっていくカフェテラスができた。
- 形状は空間の大きさに変化を出すため、床・天井・左右の幅すべてが奥に向かうほど広がっていく構造にした。床を段階的に上げていくことで各場所で見える景色に変化をあたえることができた。

塩野谷 基悟 4319212
Kisato Shionoya



concept

休息の場であるカフェテラスに非日常を感じられる環境を作り上げ、人の動きを誘発し交流が生まれるような空間となるようにした。

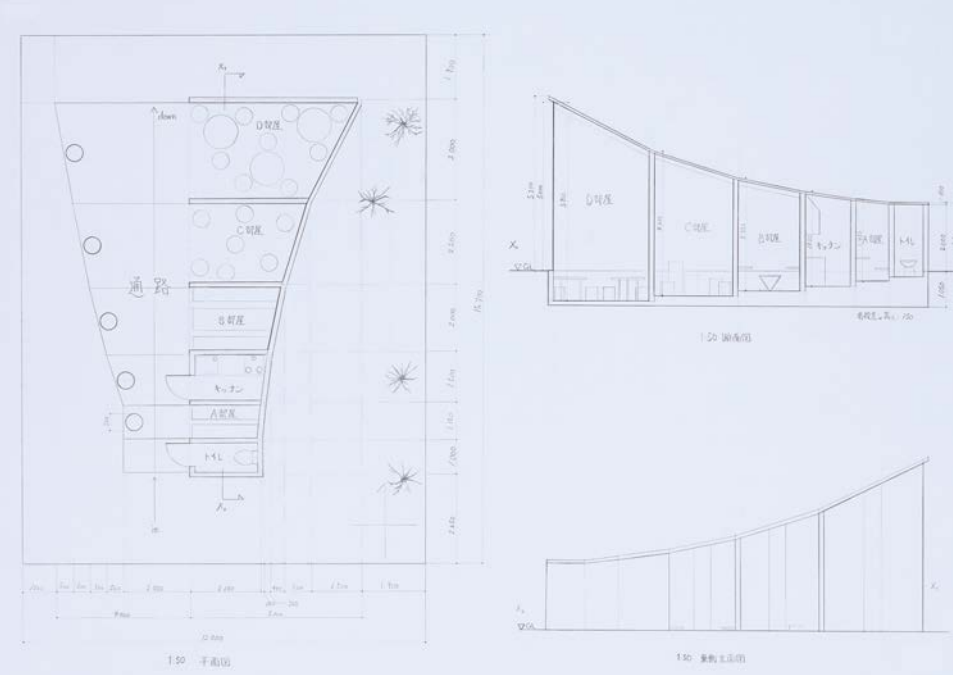
移ろう

外の空間と中の空間を連続にし、自然環境によって常に見方が変化し流動的な空間は移り続ける。7つの扉は大きさ・角度がすべて異なり、配置を中央の螺旋階段を囲うようにすることで、自由に移動ができる。本階等に配置することで奥の空間も空間なり利用者は日・時間・気分に酔って最適な空間へ移り続ける。

洞う

背板に届かず、机・椅子も配置しない空間とすることで休息・交流が真心となるようにする。段差や床に座ったり寝たりできるような段差や角度にしている。

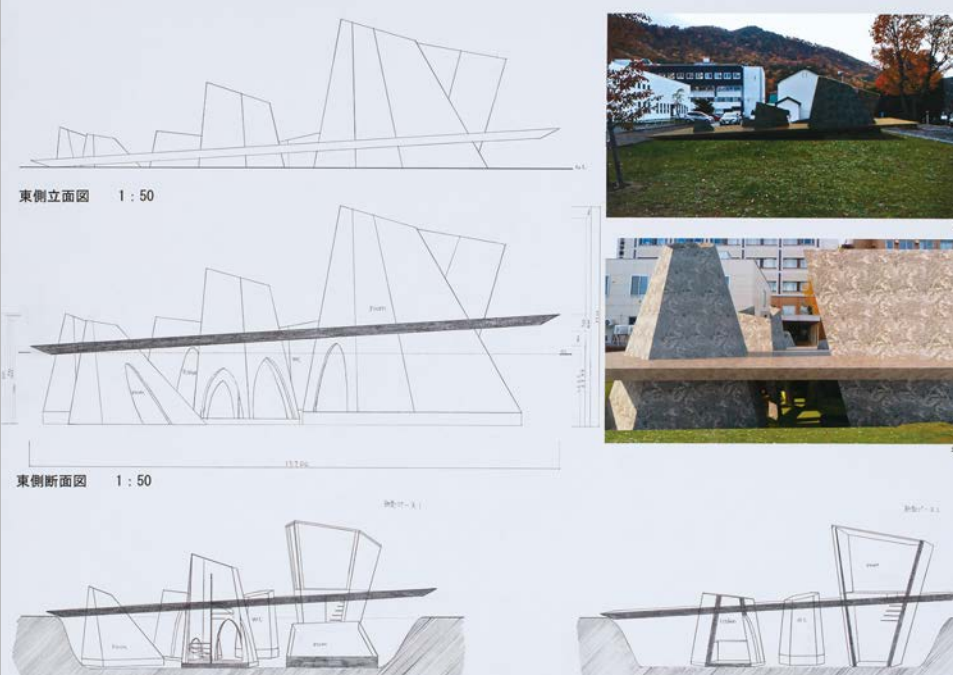
1階平面図 1:50



1:50 平面図

1:50 断面図

1:50 断面図



東側立面図 1:50

東側断面図 1:50

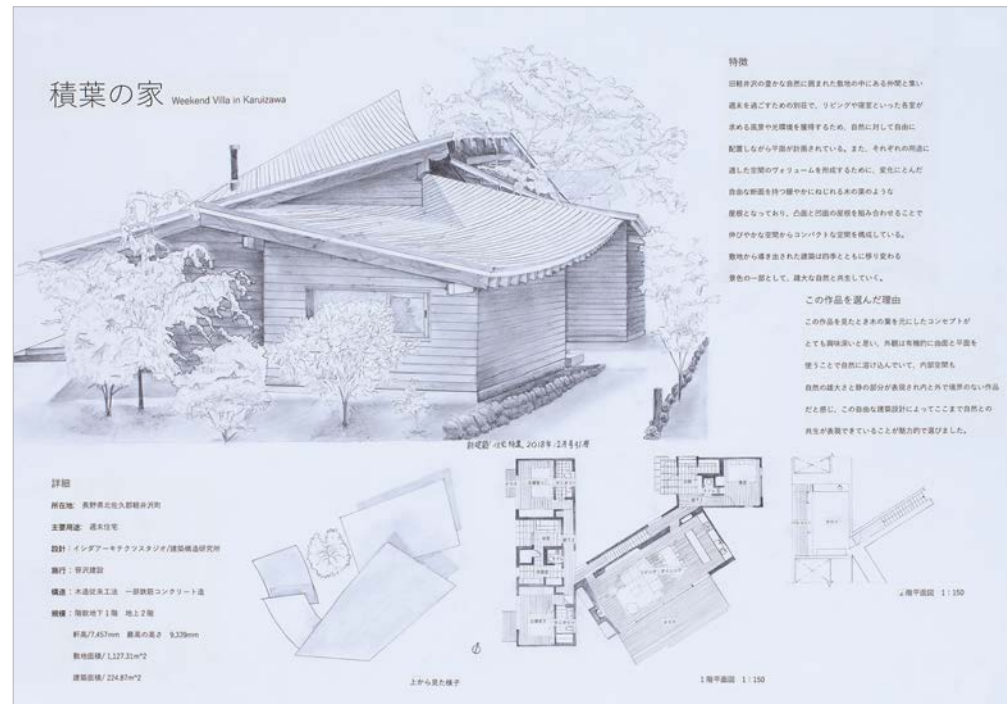
写真

写真

写真

小課題「住宅をさがそう」

デザインを学ぶ効果的な方法の一つは、優れた作品をたくさん見ること、そしてそれを手で描いてみることです。この課題はそのためのトレーニングであるとともに、次の課題「住宅」のための事例研究も兼ねています。

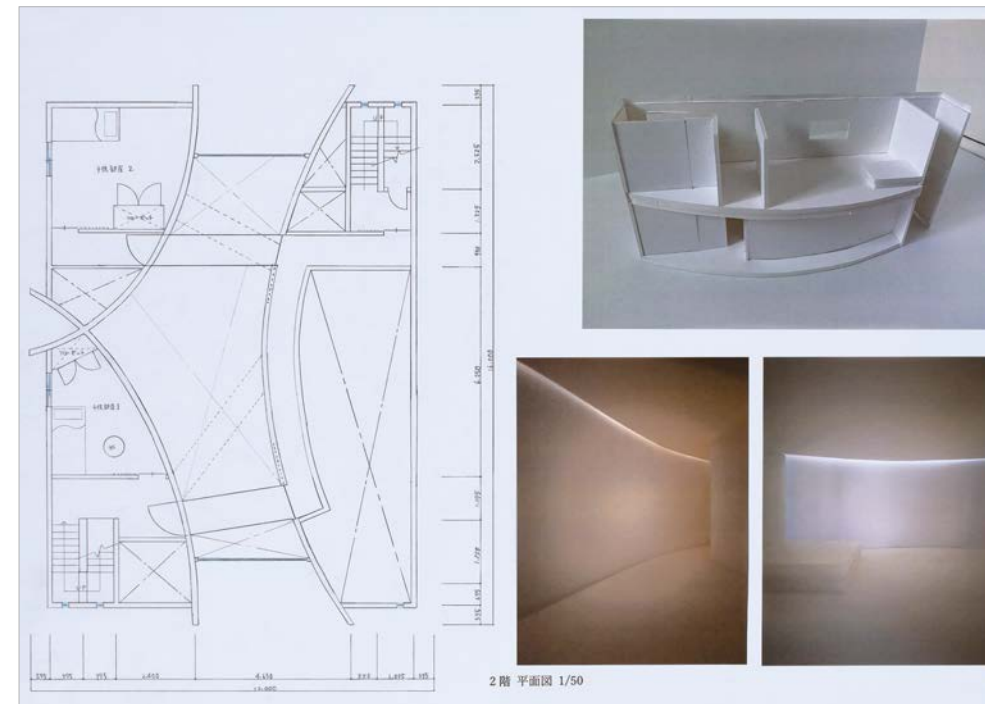


鈴木瑛美
Eimi Suzuki
4319118

住宅

現代人の生活にふさわしい魅力ある住まいの設計。敷地は東西14m×南北18m。北に車道、南にプレイロットと遊歩道が隣接。周囲は閑静な住宅地。家族構成は夫婦と子供二人（10代の長男、長女）。

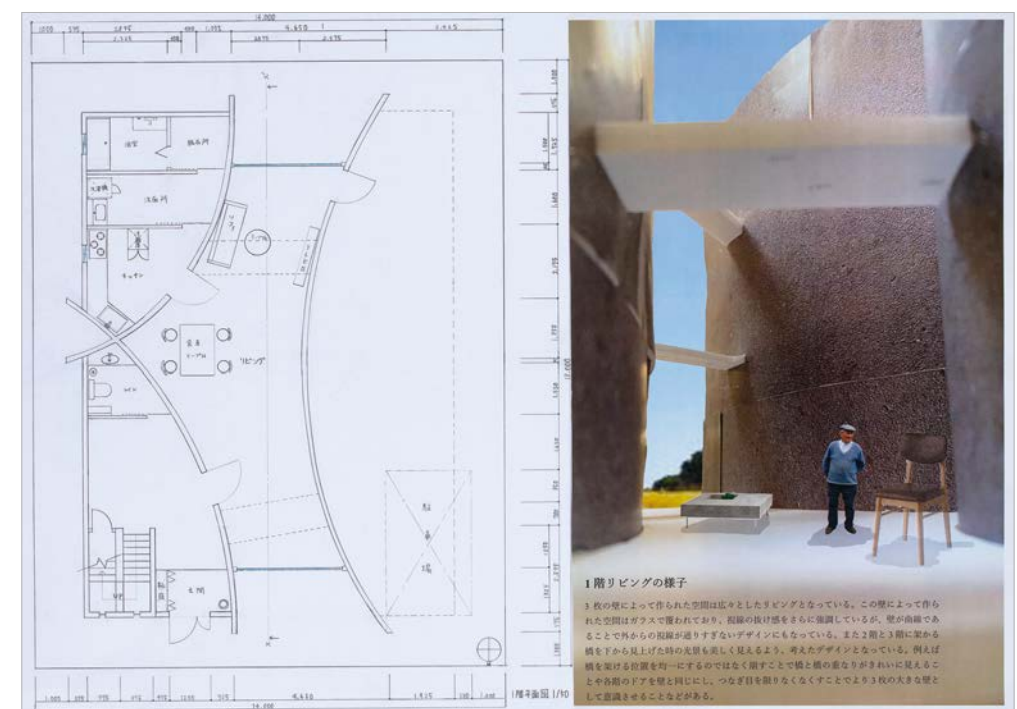
畠中脩斗
Shuto Hatanaka
4319128



2階 平面図 1/50



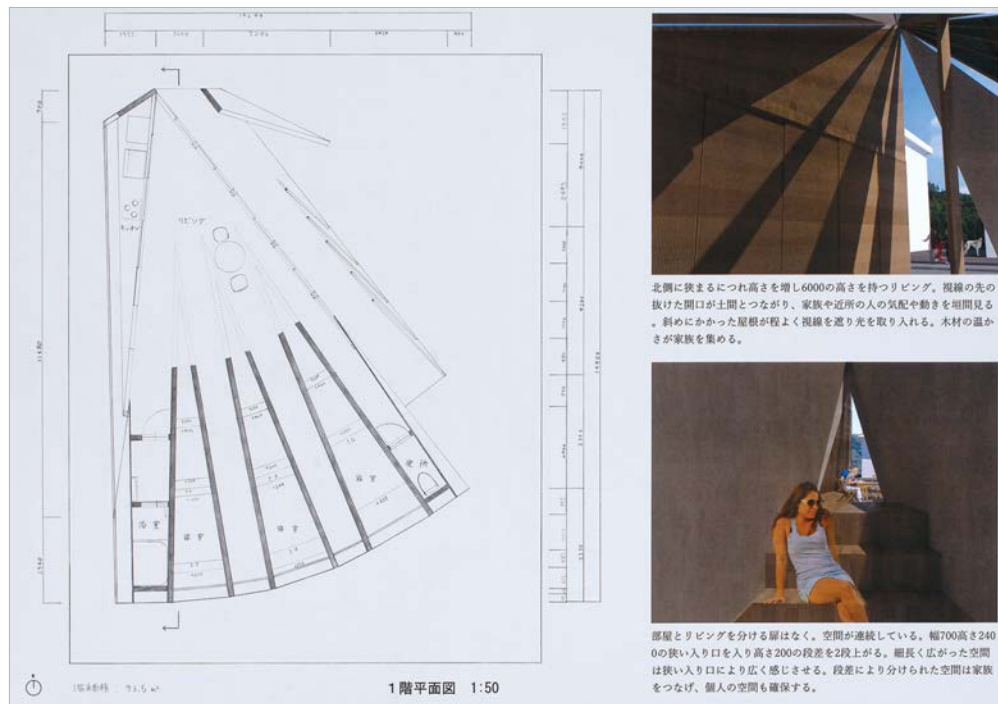
渡邊智帆
Chiho Watanabe
4319236



1階リビングの様子

住宅

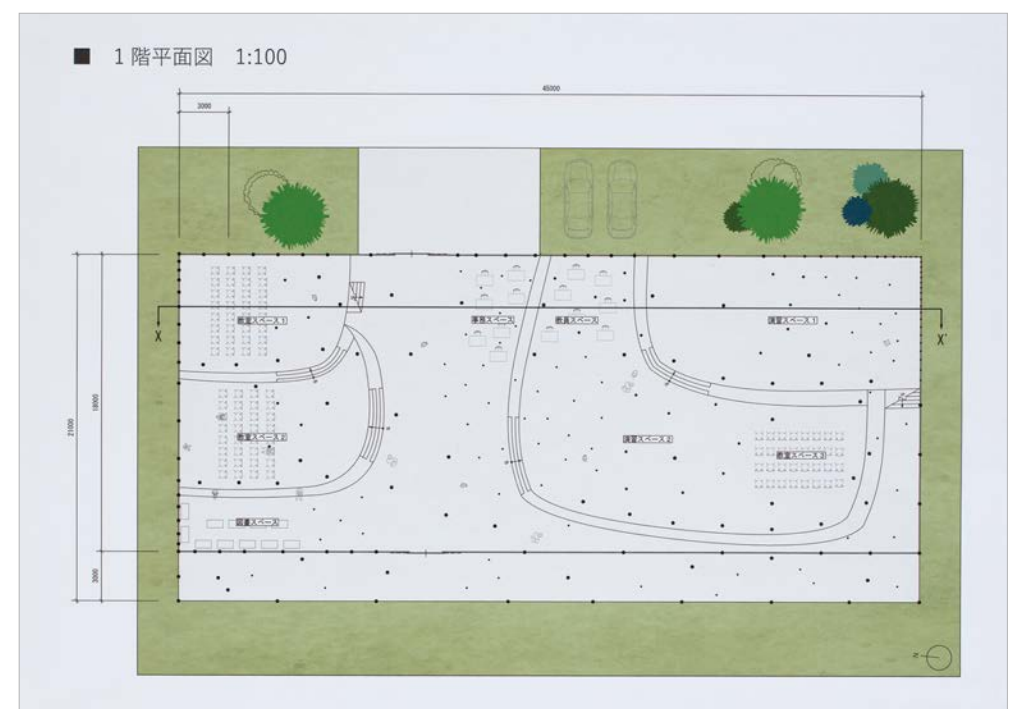
塩野谷基悟 4319212
Kisato Shionoya



デザイン・スクール

これは、趣味や日常生活、あるいは将来の仕事のためにデザインを学ぶための建築です。(ファッション、インテリアの2コース。2年制)。デザインの勉強にふさわしい雰囲気のキャンパスと学校生活を楽しめるような場を留意してほしい。設計にあたっては次のことに留意してほしい。 ①授業ばかりでなく、課外での学習・休憩など、学生の活動・動きを考えた建築の提案。(内部空間のほか、校庭など屋外の場のあり方、内部とのつながり方など) ②校舎全体が円滑に機能するような各空間の配置の検討。(教室群、演習室、教員室、図書室、管理用諸室、休憩・移動空間、屋外の居場所など、相互の位置関係) ③敷地周辺の環境との関係や住民に開かれた建築の提案など。

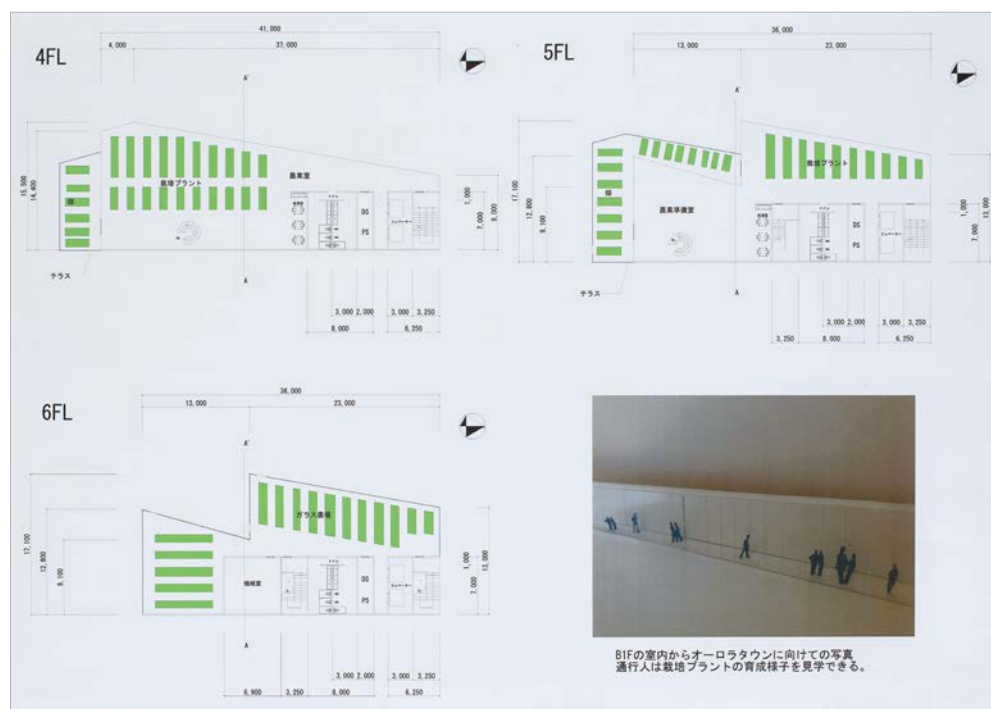
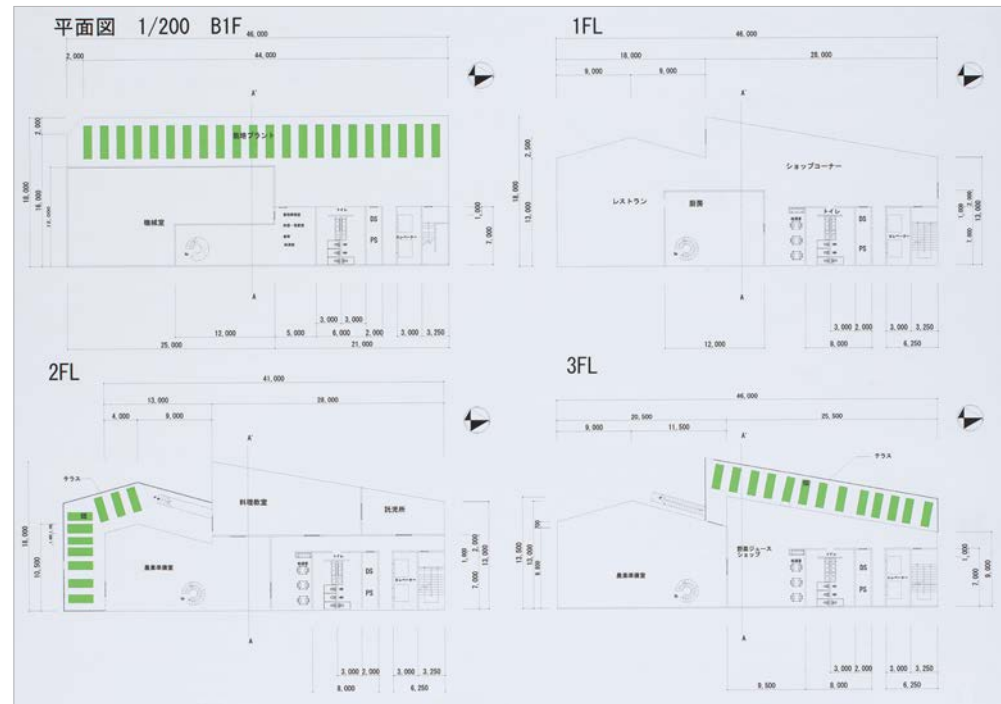
高崎菜々美 4318117
Nanami Takasaki



テナント・ビル

床を多層化したビルは都心における建築の典型です。多層化に伴い構造、設備、交通空間などが立体化し、近隣のビルや街並とも密接した関係におかれます。それらは制約条件といえますが、同時に都市建築ならではの特徴でもあります。都心に働く人々や都心を楽しむ人々にとってどのような建築が期待されるか、また街並や敷地条件に対してどのような建築がふさわしいか、テナント・ビルの設計を通じて提案してほしい。

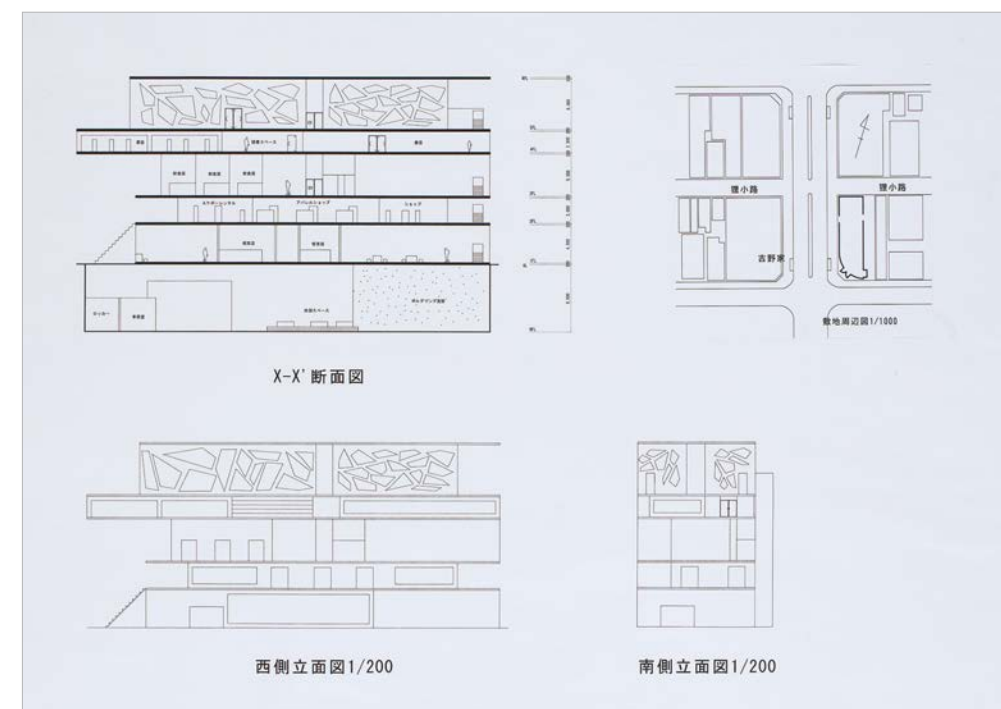
吉田光沙
Misa Yoshida 4318139



赤坂飛龍
Hiryu Akasaka 4318201



Tenant Building

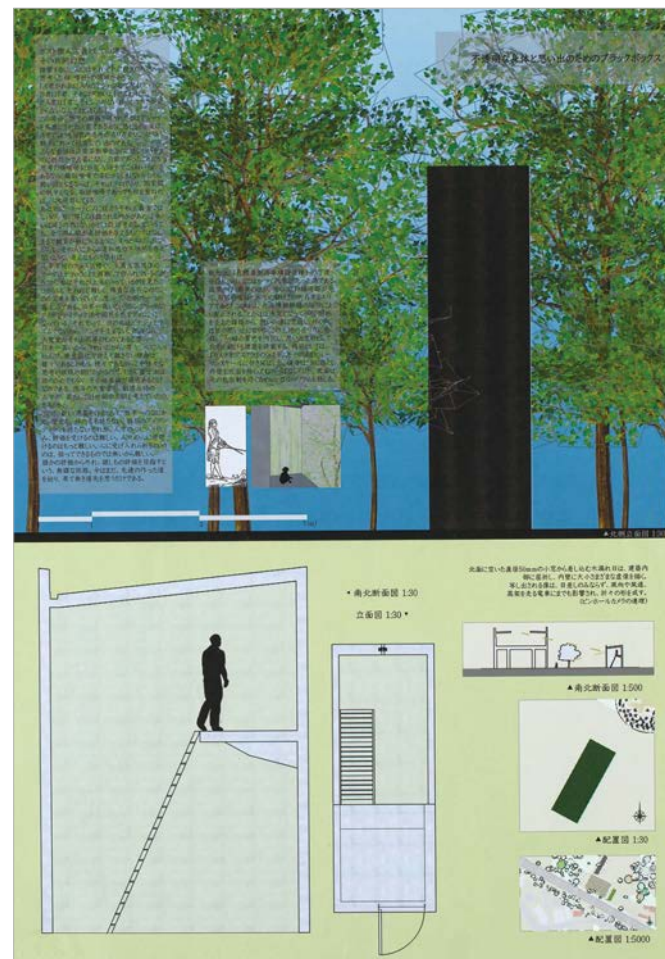


光の空間

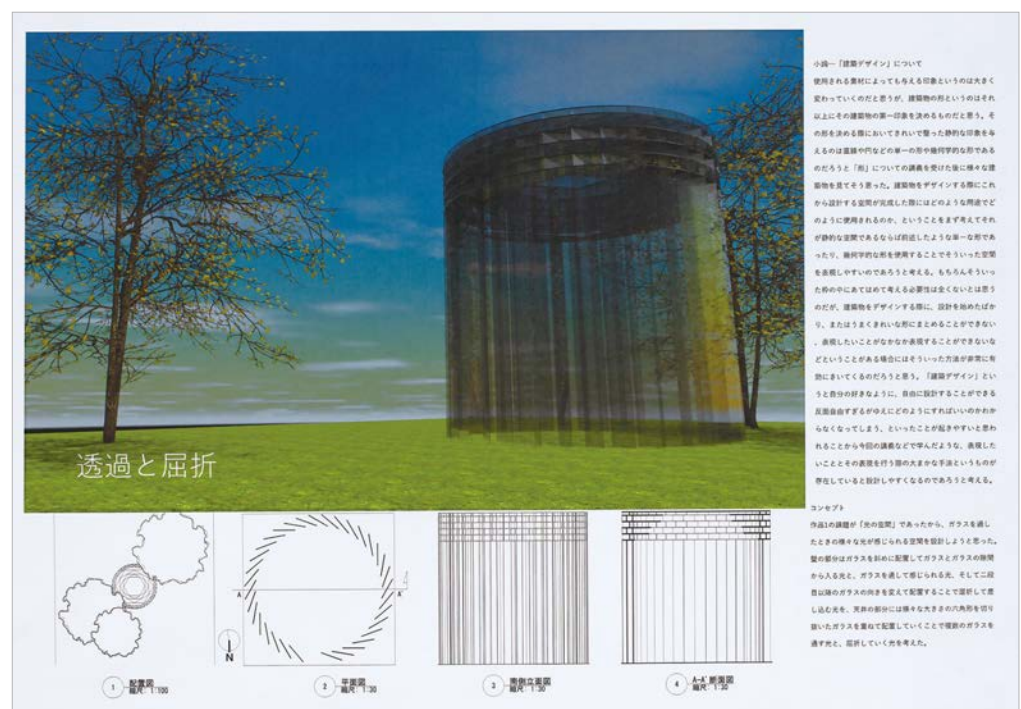
建築空間の豊かさは、面積や容積のような数量を基準に判断できるものではありません。人間がその空間を体験したときに、何らかの印象として知覚するものです。そのような印象を与える要素としては、例えば、ヴォイドの輪郭、素材や色、多様な動線、外部との関係、そして光の変化などがあります。これらによる空間効果は、広く大きい空間よりも、狭く小さい空間から、より実感できます。なぜならば、限定される不自由さが、独創的なアイデアを生むからです。今回の課題は、限定された20m²の空間の中に、「光の空間」をデザインします。



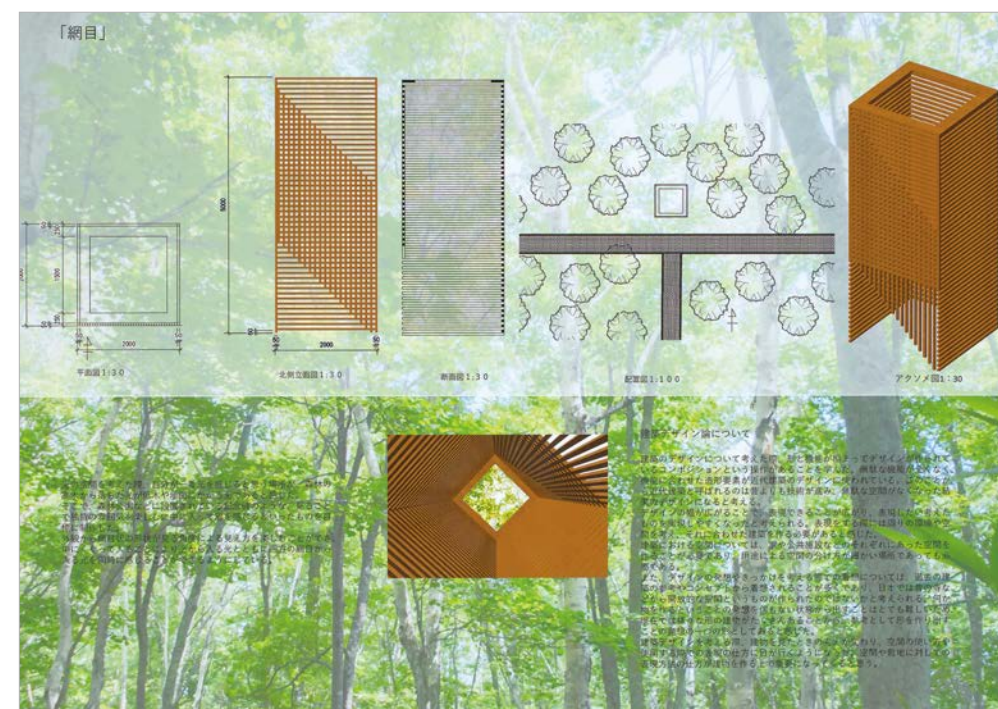
無常光
高崎菜々美
Nanami Takasaki
4318117



不透明な身体と思い出のためのブラックボックス
高橋奈緒
Nao Takahashi
4318120



透過と屈折
五十嵐未来
Miku Igarashi
4318102



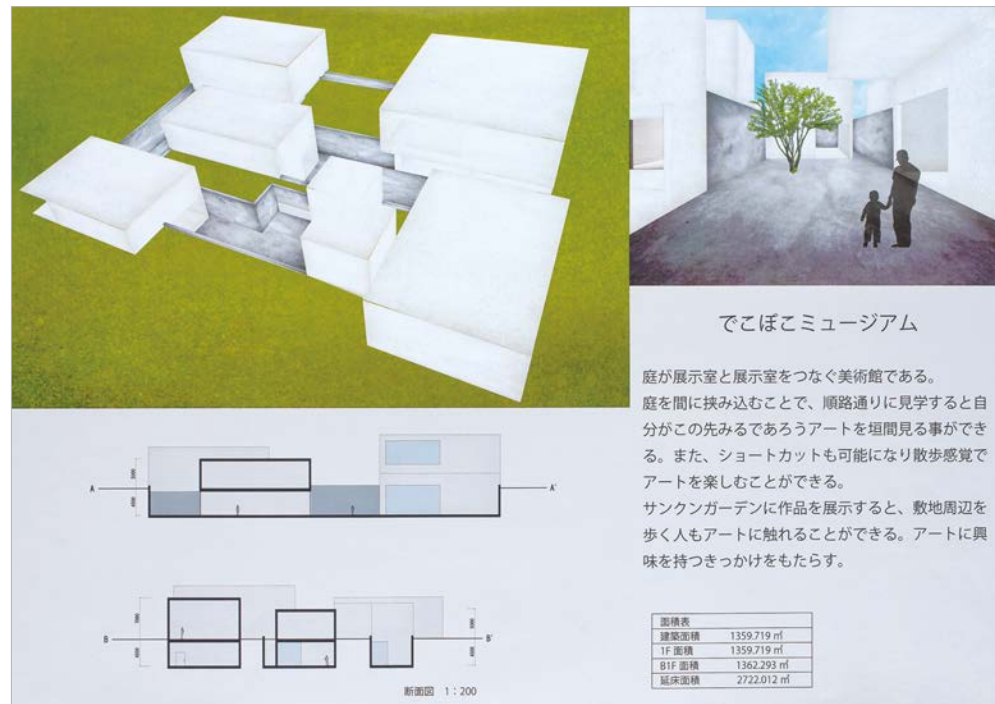
網目
黒田駿平
Shumpei Kuroda
4318210

アート+建築=X

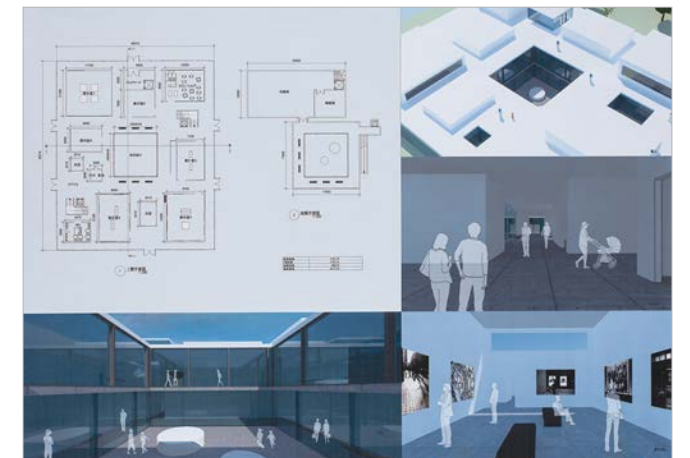
アートと建築について考えてみよう。

アートという言葉からは、芸術や美術とは異なる印象が伝わってきます。アートは、芸術や美術と言葉の意味することは同じとは言え、あまり堅苦しい印象はなく、比較的人々にとって身近な存在になっています。現在の都市空間の中には、表現手段は多様なながらもアートは満ち溢れています。このようなアートを建築と組み合わせるとどうなるでしょうか。既存のビルディングタイプからは、美術館が想像させられます。しかし、既存の美術館は、展示された芸術や美術作品を「見る」という行為が中心になり、展示空間では、学芸員などの管理者側の視線によって、作品との間に距離感を生じさせています。今回の課題では、芸術や美術に限定せず、人々にとって身近な存在であるアートと建築の関係を模索しながら、今までの美術館とは異なる建築を設計することを目的としています。アートと建築に関しては、表現媒体としての共通性がありますが、それぞれの目的性は決して同じではありません。時間軸を中心に考えると、建築はアートより恒常的なもので、長い時間に耐えることが要求されると考えられます。しかしながら、現代社会においてはアートと建築の境界線は必ずしも明確ではありません。アート+建築=X、このXを提案して下さい。

高崎菜々美 4318117
Nanami Takasaki



福井彰一郎 4318226
Shoichiro Fukui



電車通りの「みんなの家」

「いえ」は生活のよりどころです。したがって、「いえ」は生活者の意思や好みが反映し、所有する敷地の中では生活者の自由が保障されています。しかし、「まち」は違います。「まち」は、様々な好みを持った人たちが共有する空間です。「まち」の本来的な目的性は、人々の多様性を受け入れるところにあります。複数の世帯が集まって住む共同住宅は、「いえ」と「まち」の間に位置している建築です。したがって、共同住宅は、個人の住む空間の快適性を追求することも大切ですが、「まち」との関わりを意識することも大切になってきます。しかし、現在の既存の共同住宅（マンションやアパート）は、均質化した住戸が反復しているだけで、「いえ」と「まち」の間にある魅力的な共有空間が与えられていません。その結果、「いえ」と「いえ」の交流、そして「まち」との交流が広がらないのが実情です。今回の課題、電車通りの「みんなのいえ」は、このような観点から、「いえ」と「いえ」、「いえ」と「まち」の間を考えることを主な目的としています。札幌の都心に住むことを前提にしながら、個人の快適な空間だけでなく互いの関係を意識できる空間として、集まって生活することができる魅力的な建築環境を提案してみてください。

福井彰一郎 4318226
Shoichiro Fukui



八柳光汰 4318236
Kota Yatsuyanagi

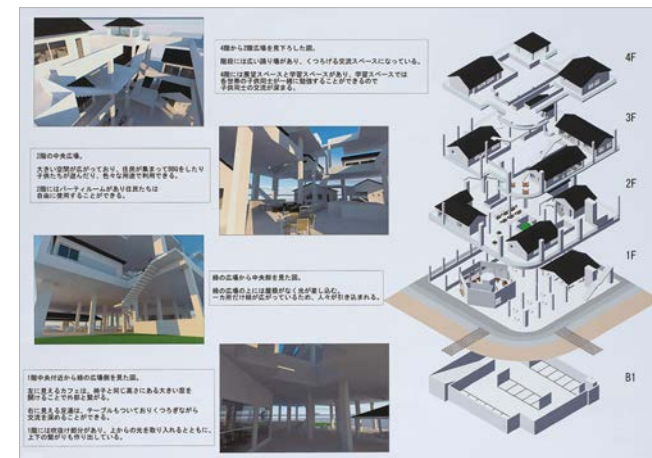
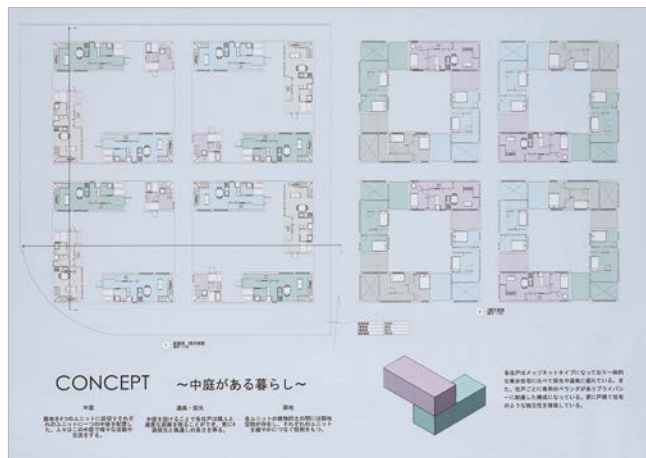
繋がり

Concept

人と人を繋ぐ：人間関係が希薄になってきている現在、近隣住民や地域の人と良好な人間関係を築いていくことは、とても大切なことである。そこで、人と人との繋がりを重視した集合住宅を提案する。
1階はロビー空間になっており、地域の人々も気軽に立ち寄れる。交流の場・憩いの場としてカフェや足湯、緑の広場がある。
2~4階には住戸や共同のスペースがある。各階やそれぞれの住戸間を、踊り場の広い階段や広いスペースで繋ぐことで、住民同士の交流が増える。

暖かい家：一般的な集合住宅は、四角い部屋が縦と横に並んでいるだけで、無機質な印象を受ける。そこで、それぞれの住戸を分棟型とし切妻屋根にすることで、従来の集合住宅とは違う暮らしの家になり、帰ってきたくるような暖かい印象になる。また、それにより外からの見目が不思議な人の目を引く建物となる。

建築面積	1186.43㎡
B1	771.86㎡
1F	1147.93㎡
2F	1097.09㎡
3F	823.93㎡
4F	644.94㎡
延床面積	4485.75㎡



大通公園前の図書交流館

いまの図書館に、不満を持っていませんか？

既存の図書館は、主に利用者に収集した資料や情報を最大限に提供し、調査研究に役立てる社会教育施設として機能しています。しかし、普段利用する上では、利用者の書斎であったり、勉強部屋のような場所であったりと、日常的な空間の延長として存在しているのが実状だと思います。しかし、既存の図書館をかえりみると、いかにも「公共建築的」で、人々が心地よい場所として利用できる本来の建築空間としての視点が大きく欠けています。その居心地の悪さが人々のためのコミュニティスペースとしての機能性を満足させていない理由にもつながっています。本来の公共建築には、もっと人々の交流の拠点となるような、生きた建築が求められているはずです。今回この課題で、札幌の都心に、図書館の機能を中心とした、人々のための、あるいは個人のための新たな「図書交流館」を考えてみます。このロケーションは、大通公園に隣接し、札幌のランドマークであるテレビ塔や創成川公園、そして時計台にも近い魅力的な環境でもあります。この環境を生かすことによって、さらに札幌の魅力を高めることができるのではないのでしょうか。

平田奈羅
Nara Hirata

4317222



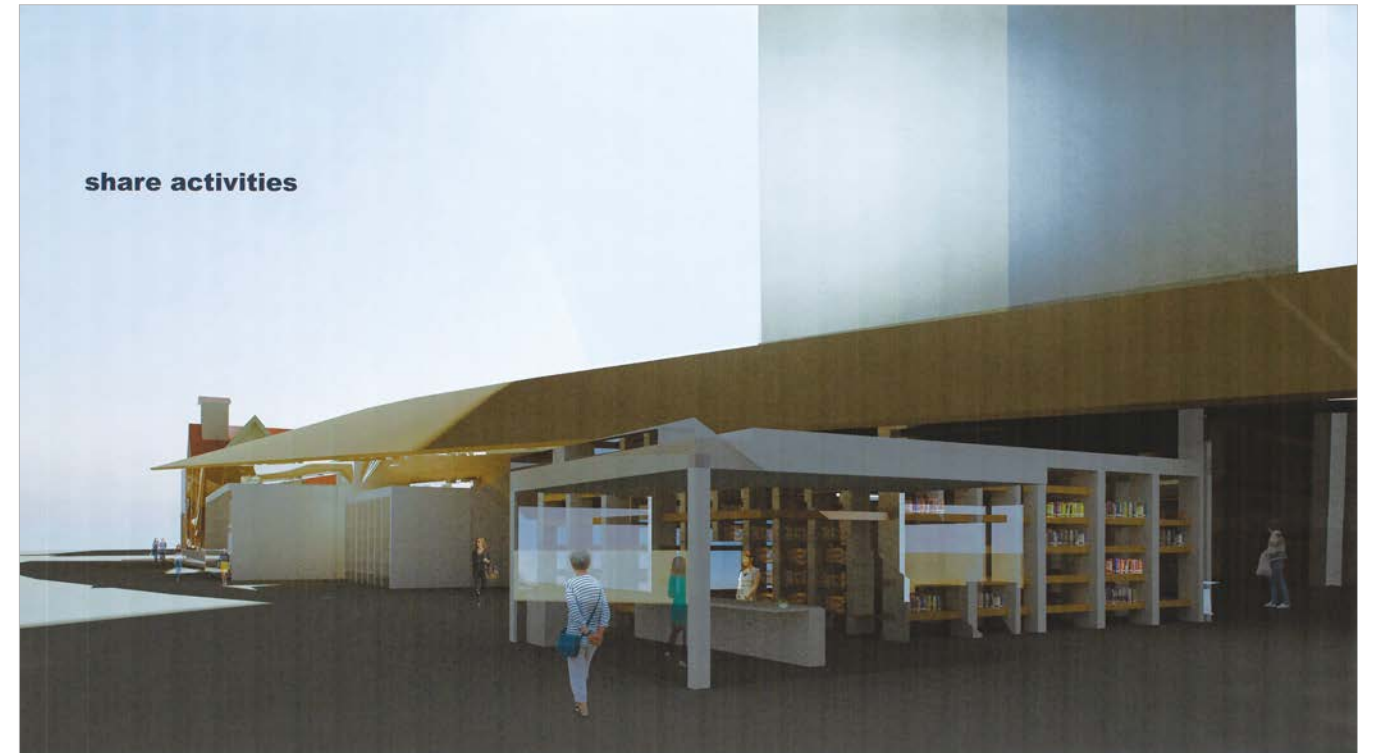
札幌の中心部で観光地に近いこともあり、様々な人が行き交い交通量が多い
図書館は比較的長時間滞在する場所だから、過ごしやすい空間でなければならない
すべての人にとって心地よさは違うので、多様な特徴を持った空間を設け、好みの場所を使用できる施設を目指した
施設内、内外の人が適度な距離を持ち、交流できる場を設けた
また、図書館が開館している時にしか使用出来ない、時間が制限されるので、一部だけ常時開放部分を設け、自由に利用出来るようにした。

CoCoChi



丸山莉奈
Rina Maruyama

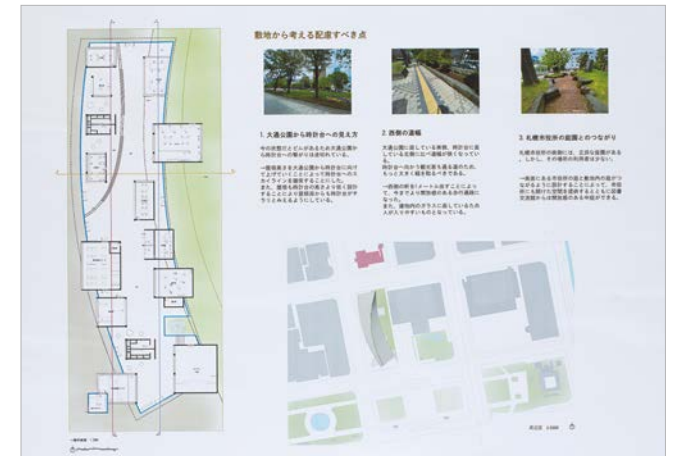
4317226



share activities

concept
多様な目的を持った人々が集うおらかな場所

図書館とは資料を分類事に保管され、目的を持ってきた人には大役役に立つ場所である。しかし、自分が知らない分野について学ぶことは少ないのではないだろうか。この施設では、工業と本を関連づけることによって文化を体験、学ぶ仕組みにしている。それらは主に札幌の文化を体験するもの(札幌スタイル等)を中心に行っていく。それによって時計台にくる観光客に対するアピールと自分の地域の文化を再確認することが出来る。また、工業を加えることによって札幌市民の心のよりどころとなるような空間を設計する。



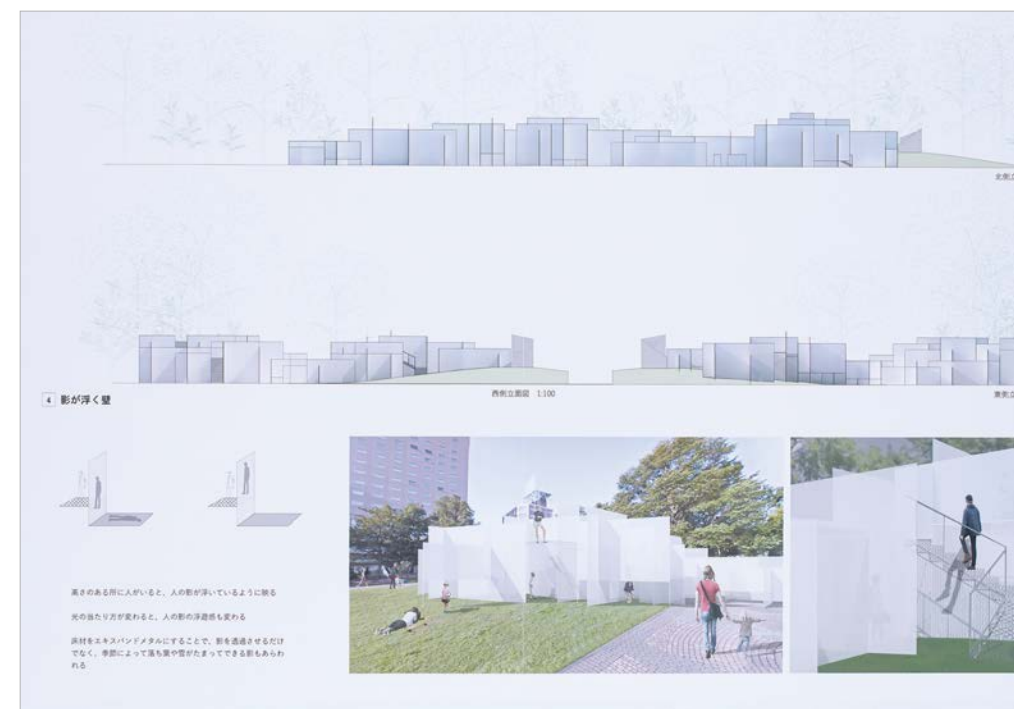
光と邂逅する建築

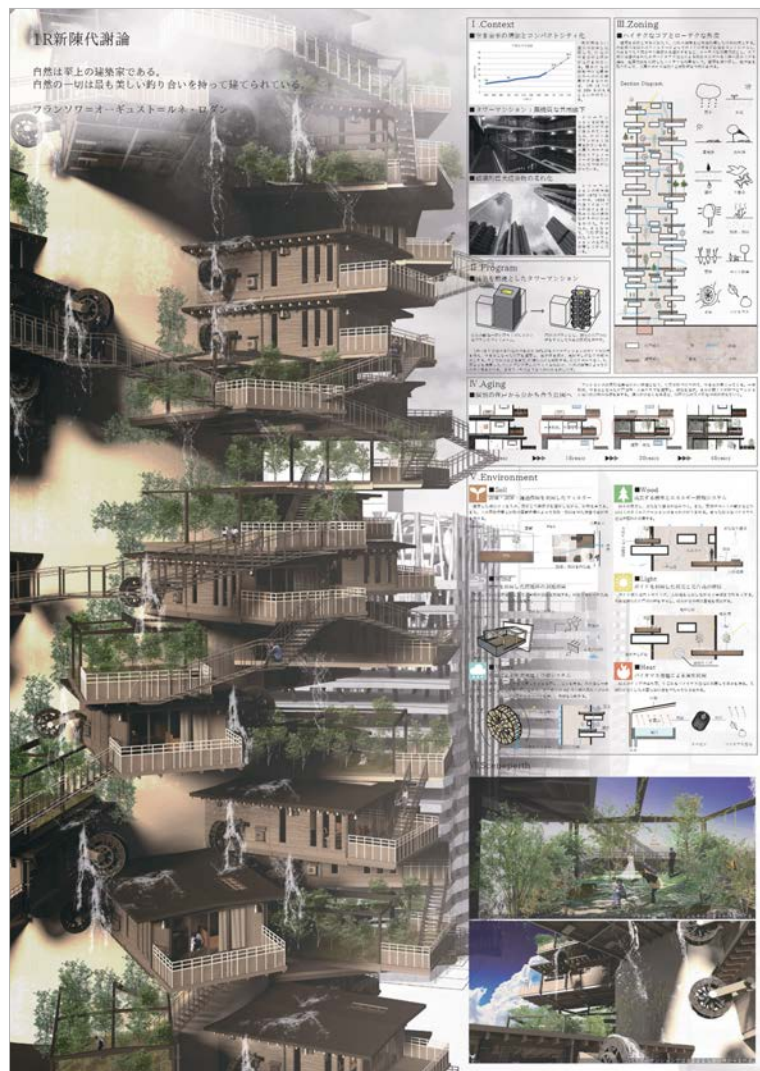
建築にとって、光は必要不可欠です。人体にたとえると血液のようなものです。建築形態に表情を作り出すために、内部空間を生かすために光は極めて重要な存在です。光は、建築に豊かさを生み出し、生活に潤いを与えます。今回の課題は、公園の中に「光と邂逅する建築」を設計します。ここでは、休息の空間、祈りの空間、遊びの空間、出会いの空間など人々の生活に安らぎを与えるための空間を用意します。空気のような存在である光をあらためて見つめなおすことによって、建築空間の存在意義を再確認します。また、光は自然の一現象です。建築は、自然（緑、風、水……）との関わりを考えることが重要です。このような観点から、自然の一部のような、生きた建築を提案して下さい。

麻生香実 4317102
Komi Aso

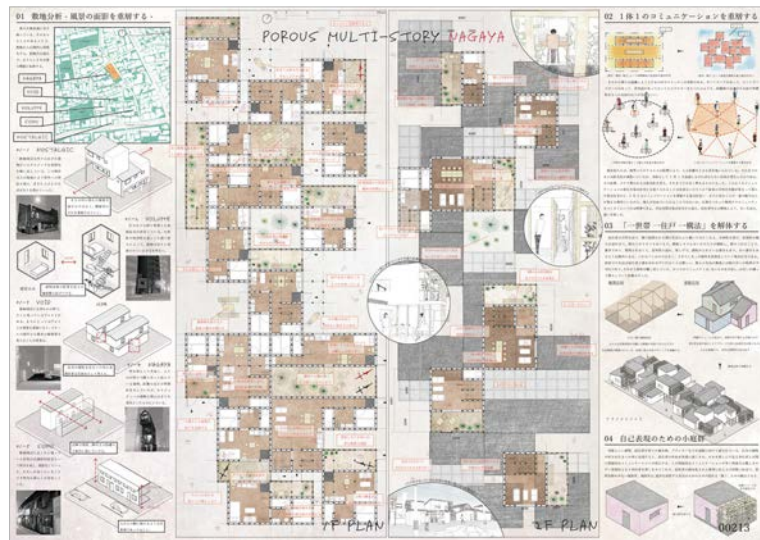


平田奈羅 4317222
Nara Hirata





第1回「スカイコート学生プランニングコンペ」最優秀賞(共同作品)
 修士1年生 三浦光雅 Mitsumasa Miura 6320101
 4年生 岩谷 蓮 Ren Iwaya 4317107



第14回「長谷工 住まいのデザインコンペティション」優秀賞
 修士1年生 三浦光雅 Mitsumasa Miura 6320101



インテリアプランニングコンペ2020 日本インテリアプランナー協会会長賞
 4年生 丸山莉奈 Rina Maruyama 4317226



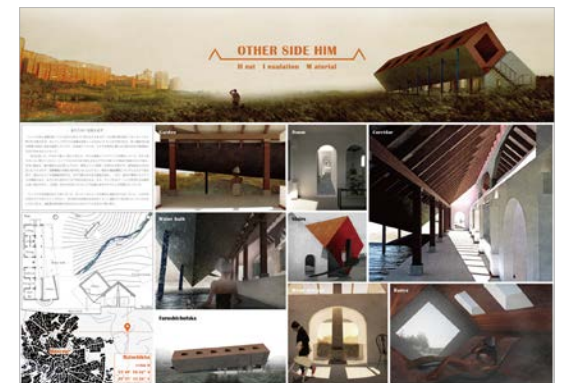
第45回「北の住まい住宅設計コンペ」最優秀賞
 4年生 平田奈羅 Nara Hirata 4317222



第45回「北の住まい住宅設計コンペ」優秀賞
 修士1年生 渡邊憲成 Kensei Watanabe 6320102



第45回「北の住まい住宅設計コンペ」優秀賞(共同作品)
 4年生 岩谷 蓮 Ren Iwaya 4317107
 4年生 飯谷谷健 Ken Iigaya 4317103



第12回「ハーフェレ学生デザインコンペティション2020」一次審査通過(共同作品)
 修士1年生 三浦光雅 Mitsumasa Miura 6320101
 修士1年生 渡邊憲成 Kensei Watanabe 6320102

沼田町
高齢者向け集合住宅
計画設計提案プロジェクト

当プロジェクトは、本学と沼田町との包括連携協定を下敷き、沼田町が検討中の高齢者向け集合住宅に関して、建築学科学生の豊かな発想にもとづく空間デザインの検討・制作を依頼された活動である。沼田町役場から岡本ゼミと石橋ゼミとに依頼いただいた。
約3ヶ月かけて3年生の有志を交え取り組んだ。9月には沼田町を訪れて、横山町長からお言葉を頂戴したのち、対象敷地や既存の高齢者向け集合住宅を見学するなど情報収集をおこなった。帰礼後、3チームに分かれて提案を練った。新型コロナウイルス感染症の影響により、空間デザイン提案のプレゼンテーションは、12月にオンラインで開催した。
役場内での協議検討を経て、提案内容のうち高い評価を得られたデザインは、設計プロセスに組み込まれて反映されることとなった。参加学生は、通常の演習課題とは異なり、実現する可能性があるという緊張感と期待のなかりな力を尽した。

9月現地視察

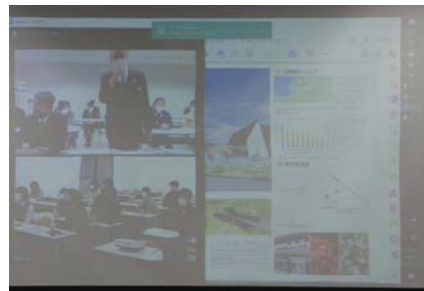


横山町長にご挨拶



敷地に隣接する公共施設を見学

12月オンライン・プレゼンテーション



横山町長より挨拶



石橋ゼミ丸山チームによるプレゼン



石橋ゼミ藤原チームによるプレゼン



岡本ゼミ生チームによるプレゼン

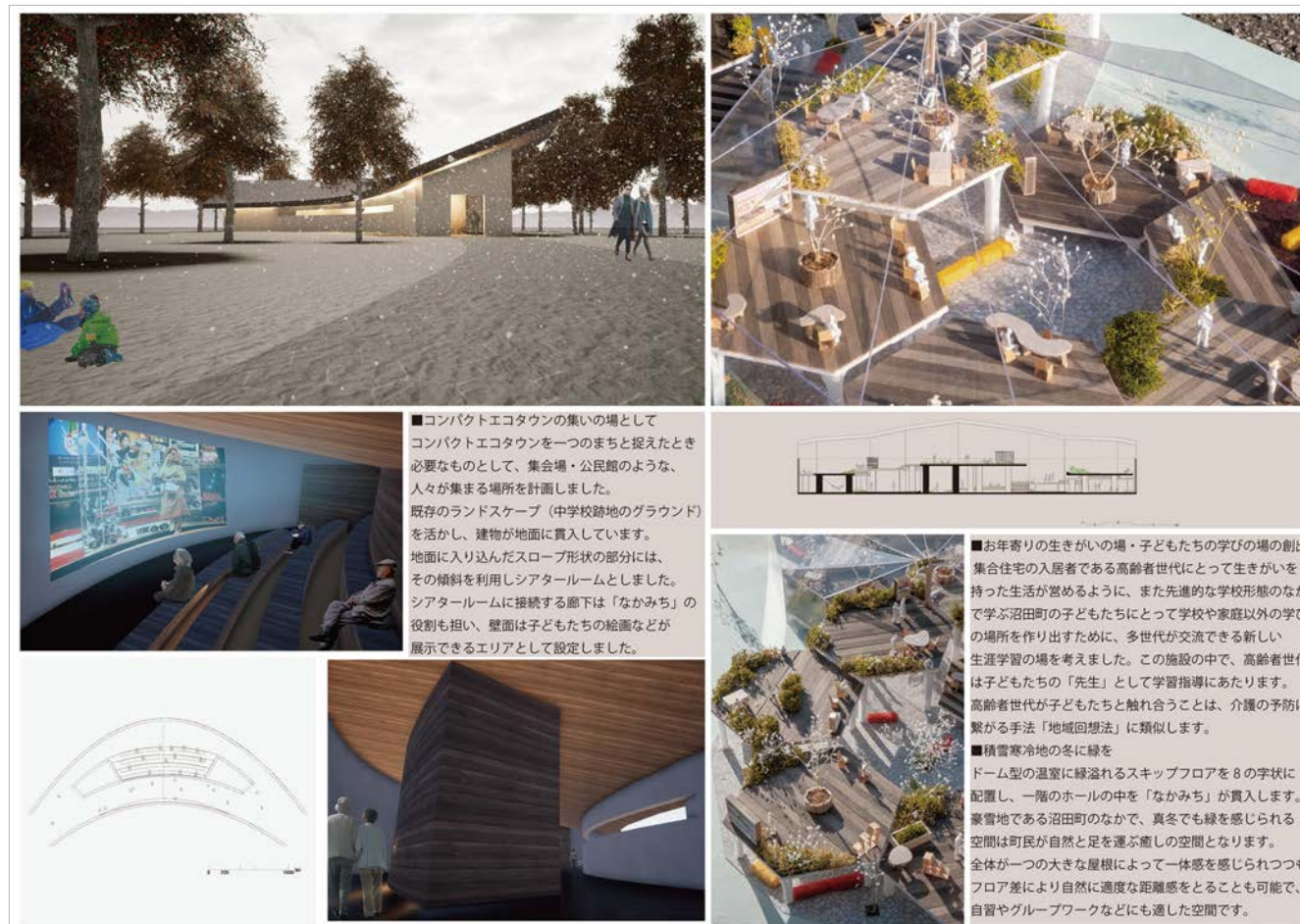
オンライン・プレゼンテーション終了後



プロジェクト参加学生

4年生	上野雅貴	Masaki Ueno	4317108
	高橋茉佑	Mayu Takahashi	4317120
	岩淵晃大	Kodai Iwabuchi	4317203
	片山菜月	Natsuki Katayama	4317206
	佐竹彩花	Ayaka Satake	4317210
	藤原絢佳	Ayaka Fujiwara	4317223
	丸山莉奈	Rina Maruyama	4317226
	向井芽愛	Mei Mukai	4317228
	横田柊斗	Shuto Yokota	4317235
3年生	高崎菜々美	Nanami Takasaki	4318117
	高橋奈緒	Nao Takahashi	4318120
	鳴海圭祐	Keisuke Narumi	4318124
	吉田光沙	Misa Yoshida	4318139
	塩谷拓希	Hiroki Shiotani	4318215
	福井彰一郎	Shoichiro Fukui	4318226
	堀田達也	Tatsuya Horita	4318229

石橋ゼミ藤原チーム



チームメンバー

4年生	藤原絢佳	Ayaka Fujiwara	4317223
3年生	高橋奈緒	Nao Takahashi	4318120
	鳴海圭祐	Keisuke Narumi	4318124
	塩谷拓希	Hiroki Shiotani	4318215
	福井彰一郎	Shoichiro Fukui	4318226
	堀田達也	Tatsuya Horita	4318229



沼田町
高齢者向け集合住宅
計画設計提案プロジェクト

石橋ゼミ丸山チーム



ともに分かち合う家

共有棚の効果
住人の趣味で制作した作品を飾ったり、休憩スペースのベンチとしても使用できる。趣味の作品を飾ることで住人の個性を発信することができ、作品に興味を持った通りすがりの人との交流へのきっかけが出来る。

屋根裏の使い方
二階の屋根裏にある共有棚は、住人が再利用したいものや、二階の共有スペースで交流したいときに使いたいものを置いていく。住人のアピールとともに、ほかの人との会話のきっかけとなるだろう。



断面図・立面図 1/100



チームメンバー

- 4年生 丸山莉奈 Rina Maruyama 4317226
3年生 高崎菜々美 Nanami Takasaki 4318117
吉田光沙 Misa Yoshida 4318139




Concept ~共有棚を通しての交流~
高齢の生活で生き生きと活動するには何が必要か考えた際に、コミュニケーションが取りやすい環境が必要だと考え、住戸同士が気軽に交流できるような空間に思いをめぐらせました。廊下の壁に展示スペースを設け、住人の作品を飾ることで、住人の個性を発信し、興味を持った通りすがりの人との交流へのきっかけが出来る。また、なかみちのベンチが設けられているため、廊下のベンチは、利用者を促すことにもなる。こうして廊下の交流のきっかけが出来ること、住戸同士が、やすい空間になる。

廊下の自由空間
廊下の中央にベンチを設置し、人々の交流の場とした。廊下の壁に展示スペースを設け、住人の作品を飾ることで、住人の個性を発信し、興味を持った通りすがりの人との交流へのきっかけが出来る。また、なかみちのベンチが設けられているため、廊下のベンチは、利用者を促すことにもなる。こうして廊下の交流のきっかけが出来ること、住戸同士が、やすい空間になる。




岡本ゼミ生チーム



おうち 楽
- 親しい人と過ごす -

広がり、つながる
なかみちを挟んで東西に広がる住戸。その真ん中に、なかみちを広げるような形で共用部を設けた。さらに、その住戸と共用部は大きい1つの屋根を共有しており、「みんなの家」として住民同士はもちろん、住んでいる人が外部の人とのつながりをつくるきっかけになる空間を造り出す。広がり人がたまり、自然につながるような住宅を目指した。



1. なかみちの広がり《交流広場》
中央に設けた共用部。なかみちを拡張するような形にし、通る人と自然に交流ができるようになっていくので住民や町民があつまって、イベントやパーキューなどを楽しめる。住んでいる人と外の人につながる場。

2. よこへの広がり《オープンスペース》
共用部からつながった左右の廊下。幅を広く設けたので、絵を飾ってギャラリーのようにしたり、椅子やテーブルを置いて気軽にくつろぐことができる。各住戸からすぐアクセスできる、住民同士が繋がる場。

3. 外への広がり《庭の小道》
大きな屋根は底のように飛び出しており、中央の庭に広がるような形になっている。東屋なども設置し、あるくらす全体をさまざまな世代の人がつながれる場にしていく。

(1) 沼田町について
北海道の北西部に位置している沼田町は、豊かな自然に包まれた町。沼田町の歴史は明治27年から始まり、かつては炭鉱と稲作の町として繁栄してきた。
2020年現在の人口は3003人となっており、今後の人口減少が危惧されている。
平成11年にはNHKの連続テレビ小説「すずらん」のロケ地として全国的に有名となった。
8月には北海道3大あんどん祭りの一つとして知られる「夜高あんどん祭り」が町を盛り上げている。
東2015年までは10/1時点でのデータ、2020年は8/31時点でのデータを使用する。

(2) 敷地周辺図
沼田町の年別人口と高齢化率のグラフと、敷地周辺の地図が示されている。

01

チームメンバー

- 4年生 上野雅貴 Masaki Ueno 4317108
高橋茉佑 Mayu Takahashi 4317120
岩淵晃大 Kodai Iwabuchi 4317203
片山菜月 Natsuki Katayama 4317206
佐竹彩花 Ayaka Satake 4317210
向井芽愛 Mei Mukai 4317228
横田柊斗 Shuto Yokota 4317235

(3) 敷地について
敷地の概要と周辺環境の図解が示されている。

(4) 暮らしのようす
住戸のレイアウトと生活イメージの図解が示されている。

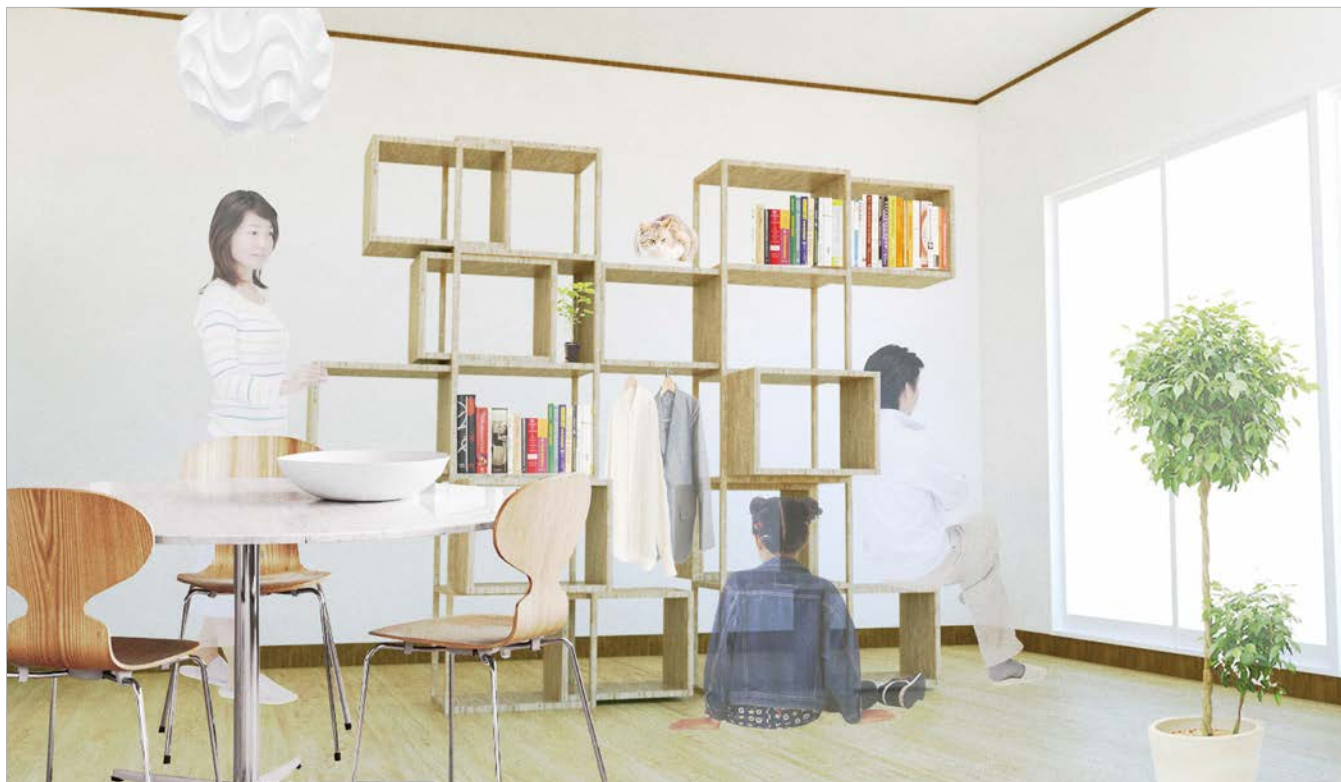
オープンスペースの過ごし方
高齢者が住む集合住宅のありかたを考えた上で提案している。住戸と共用部の関係性を示している。



第3回道内大学生による
ものづくり製品化&起業支援事業
プレゼン作品
PUSH PULL PLACE
人と寄り添う収納家具

ものづくり製品化に関して、家具・インテリアの観点から具体化したアイデアを米田研究室のメンバーが中心となって提案しました。工学部建築学科のグループは初の参加になります。

今回、注目したのは収納棚です。一般的に収納棚は「もの」のための家具・インテリアであり、テーブルやイスなどと比べて人が直接的に使用するイメージがありません。テーブルやイスは日常的に使用され、使い古されていく中で、愛着が湧いてきます。一方で、収納棚はものを「出し入れ」するのみで、ほこりがかぶってしまうことも少なくありません。そこで私たちはこの、ものを「出し入れ」する行為をきっかけに人と寄り添うような多様なアクティビティを与えられないかと考えました。引き出しを引き出すとそれがテーブルやイスにもなる。本棚の本を手にとって、そのまま引き出したイスに座って読む。家事をしているときは、簡易的な作業台にもなる。1人暮らしの学生なら、収納容量を調節出来る大きな本棚+勉強机として使用できる。新型コロナウイルス禍で室内生活時間が長くなる状況の中、家でも仕事や会議が出来るようになり、場所をとらないワークデスクとしても有効に利用出来るかもしれません。時間の経過によって変化するニーズや部屋の大きさに柔軟に対応する家具・インテリアは暮らしに充実感と独創性をもたらすのではないのでしょうか。



事業名 第3回道内大学生による
「ものづくり製品化&起業支援事業」

参加学生

主催 札幌商工会議所、北海道経済連合会、公益財団法人北海道
科学技術総合振興センター、北海道ニュービジネス協議会

協力 国立研究開発法人産業技術総合研究所、地方独立行政法人
北海道立総合研究機構、北洋銀行、北海道銀行、北海道
信用金庫、日本政策金融公庫

目的 地元経済団体の会員企業・金融機関等が、道内大学生考案
のビジネスアイデアの実現を支援することで、「理系・技術
系大学生の本道定着」「ものづくり産業の振興」「北海道経
済の活性化」に寄与することを目的として実施します。

概要 北海道内の大学で学ぶ学生(複数人数によるグループ)が
考案した「ものづくり分野」やIT等の「情報分野」における
「製品化アイデア」「企業アイデア」を、主催団体の会員
企業・金融機関等が実現に向けて支援する事業です。

期間 令和2年9月4日(金)～令和2年10月30日(金)

プレゼンテーション 令和2年12月3日(木)14:00-15:30

- | | | | |
|-------|----------------------|-------------------------------------|-------------------------------|
| 修士1年生 | 三浦光雅
渡邊憲成 | Mitsumasa Miura
Kensei Watanabe | 6320101
6320102 |
| 4年生 | 麻生香実
飯ヶ谷健
後藤悠也 | Komi Aso
Ken Iigaya
Yuya Goto | 4317102
4317103
4317208 |
| 3年生 | 高崎菜々美
高橋奈緒 | Nanami Takasaki
Nao Takahashi | 4318117
4318120 |
| 2年生 | 塩野谷基悟 | Kisato Shionoya | 4318212 |

人と寄り添う収納家具の提案



テーブルやイス = 「ひと」のための家具
人が日常的に使用する家具

収納家具 = 「もの」のための家具
部屋の隅でほこりをかぶってしまう家具

ものを「出し入れ」する行為をきっかけに
多様なアクティビティを与えられないか



CASE 0 身体寸法に合わせた収納家具を設計する



CASE 1 棚に腰を下ろす



CASE 2 押し出したスペースを机にする



CASE 3 晩ご飯の支度をする



CASE 4 上着を掛ける



CASE 5 棚に家族みんなが集まって来る



CASE 0



CASE 1



CASE 2



CASE 3



CASE 4



CASE 5

部屋の隅に佇む収納家具



2020年度 北海学園大学 工学部建築学科 設計関連科目担当教員リスト (五十音順)

The list of professor taking charge of the subject about a design '20

4年生2学期 卒業設計	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi 岡本 浩一 Koichi Okamoto 米田 浩志 Hiroshi Yoneta	工学部建築学科教授 工学部建築学科教授 工学部建築学科教授
1年生1学期 造形演習 I	原井 憲二 Kenji Harai 非常勤講師 梶田みなみ Minami Kajita	工学部建築学科教授 造形作家
1年生2学期 造形演習 II	原井 憲二 Kenji Harai 非常勤講師 梶田みなみ Minami Kajita	工学部建築学科教授 造形作家
2年生1学期 空間デザイン演習基礎	岡本 浩一 Koichi Okamoto 非常勤講師 伊藤 千織 Chiori Ito 高木 貴間 Yoshichika Takagi	工学部建築学科教授 伊藤千織デザイン事務所 高木貴間建築設計事務所
2年生2学期 空間デザイン演習 I	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi 非常勤講師 石塚 和彦 Kazuhiko Ishizuka 臼井 巧 Takumi Usui 大坂美保子 Mihoko Osaka 小倉 寛征 Hiroyuki Ogura 小西 彦仁 Hikohito Konishi 佐々木タ介 Yusuke Sasaki	工学部建築学科教授 石塚和彦アトリエ office for design アーキラボ・ティアンドエム Sa design office ヒココニシ設計事務所 gl/建築設計事務所ジーエル
3年生1学期 空間デザイン演習 II	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi 非常勤講師 赤坂真一郎 Shinichiro Akasaka 大島 亘 Wataru Oshima 小西彦仁 Hikohito Konishi 堀尾 浩 Hiroshi Horio 村國 健 Takeshi Murakuni 吉本考臣 Takaomi Yoshimoto	工学部建築学科教授 アカサカシンイチロウアトリエ アトリエオンドー級建築士事務所 ヒココニシ設計事務所 堀尾浩建築設計事務所 アトリエブंक 吉本考臣建築設計事務所
3年生1学期 建築デザイン論	米田 浩志 Hiroshi Yoneta	工学部建築学科教授
3年生2学期 空間デザイン演習 III	米田 浩志 Hiroshi Yoneta 非常勤講師 赤坂真一郎 Shinichiro Akasaka 高木 貴間 Yoshichika Takagi	工学部建築学科教授 アカサカシンイチロウアトリエ 高木貴間建築設計事務所
4年生1学期 空間デザイン演習 IV	米田 浩志 Hiroshi Yoneta 非常勤講師 石塚 和彦 Kazuhiko Ishizuka 濱口 芳郎 Yoshiro Hamaguchi	工学部建築学科教授 石塚和彦アトリエ 北海道日建設計

※科目の順番は作品掲載順による

2020年度 北海学園大学 工学部建築学科 設計作品集 第27号
HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY ARCHITECTURAL DESIGN WORKS '20 vol.27

発行日 / 2021年10月1日

発行 / 北海学園大学工学部建築学科
編集責任者 / 米田浩志
〒064-0926
札幌市中央区南26条西11丁目
TEL: 011-841-1161
FAX: 011-551-2951
URL: eng.hgu.jp/arc

編集・デザイン / エイチエス株式会社
〒064-0822
札幌市中央区北2条西20丁目1-12 佐々木ビル
TEL: 011-792-7130
FAX: 011-613-3700